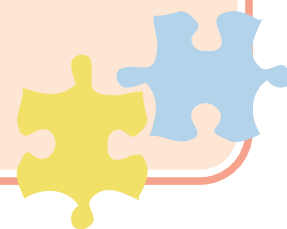


つながる
ひろがる
ハンドブック

—札幌市の幼保小連携・接続—



目次

つながる ひろがる ハンドブックー札幌市の幼保小連携・接続ー作成にあたって	1
---------------------------------------	---

1 札幌市の幼保小連携・接続

学びの芽生えから 自覚的な学びへ	2
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)って何だろう	4
幼児教育で育まれた力を生かした小学校教育って何だろう	5
幼保小連携推進協議会	6

2 幼保小連携モデル園・校事業の取組

モデル事業の概要	8
令和3年度の実践	9
令和4年度～令和5年度の実践	10
1 目指す子どもの姿を共有しよう	10
2 見通しを確認しよう	11
3 交流の時は共通指導案を活用しよう	12
4 教師同士の学び合いを大切にしよう	13
5 スタートカリキュラムをアップデートしよう	16
6 幼児・児童の交流活動例 ①5年 総合的な学習の時間より	20
②1年 生活科より	25

3 実践例

つながる ひろがる マップー自園・自校のこれまでの取組ほどの立ち位置にありますか？ー	28
01 はじめようーはじめの一步ー	30
02 つながろうーいろいろなアプローチー	31
03 かかわろうー知り合って かかわってー	34
04 ふかめようー遊びや学習が充実ー	38
05 ひろげようー地域で育む・地域がつながるー	43



つながる ひろがる ハンドブックー札幌市の幼保小連携・接続ー作成にあたって

国の動向

平成29年3月に幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針が改訂(改正)となり、**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)**が共通に示されました。このことは、幼児期の教育で育む資質・能力について整合性が図られたことを意味します。

また、小学校学習指導要領の改訂においてもこの「10の姿」が示されました。教育課程を編成するにあたり、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえた指導の工夫、教育活動を展開し、児童が自己を発揮しながら学びに向かうことが可能になるようにすることとしています。

令和4年度から実施している**幼保小の架け橋プログラム**では、5歳から小学校1年生までの2年間を「架け橋期」とし、幼児教育から小学校教育への円滑な接続が図られるよう、モデル事業や手引の作成等、様々な取組を行っています。

札幌市の動向

平成25年度から、区ごとに幼保小連携推進協議会を設置し、連携・接続の基盤をつくってきました。札幌市の5歳児の多くは、札幌市の市立小学校に就学します。幼児教育を含む札幌市の学校教育を互いに見通し、各園・校の実践の充実を図るため、このつながる ひろがる ハンドブックー札幌市の幼保小連携・接続ーを作成しました。

令和3年度～令和5年度に実施したモデル事業や、市内各地域で実践した具体的な取組について掲載しています。各園・校の参考にさせていただくことはもちろん、実情に応じてアレンジ、アップグレードするなど、多くの方々に活用いただくことを願います。

札幌市の教育が目指す人間像

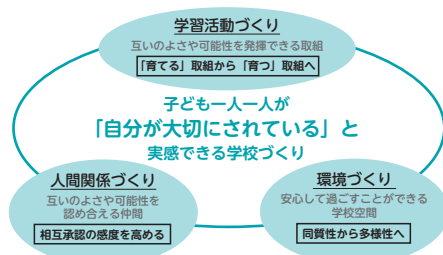
自立した
札幌人

未来に向かって新たな価値を創造し、主体的に学び続ける人
自他のよさや可能性を認め合い、しなやかに自分らしさを発揮する人
ふるさと札幌に誇りをもち、持続可能な社会の発展に向けて行動する人

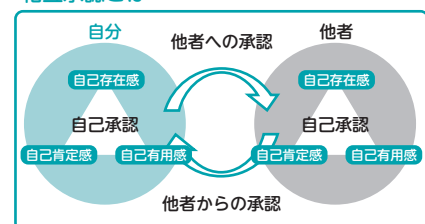
札幌市学校教育の基盤

人間尊重の
教育

子どもが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重する相互承認の感度を高め、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となっていく教育



相互承認とは



学びの芽生えから



……3歳

4歳

5歳

架け

札幌市の学校教育

学校・家庭・地域が一体となって、札幌市学校教育における学びや成長を

さっぼろっ子に育みたい資質・能力

「学ぶ力」～自ら課題を

「学ぶ力」を支える三つの資質・能力(幼児)
学びに向かう力・人間性等
またやってみよう!
あきらめないぞ
ぼくってすごい!
あの子も素敵!

遊びを通して総合的に

そうか!
こうすればいいんだ
自分の力でできたよ

知識及び
技能の**基礎**

もしかしたら
こうなるかも…
次はこうしてみよう

思考力・判断力・
表現力等の**基礎**

健康な
心と体

自立心

協同性

思考力の
芽生え

自然との
関わり・
生命尊重

幼児期の終わりまで

つながるひろがる
札幌市の幼児教育



幼児期にふさわしい生活
の中で、子どものしたいこと
が叶い、その子らしさが
発揮され、子どもが主体的
に生活できる。

幼児教育(めばえる)

※「幼児期にふさわしい生活」を展開する中
で、幼児期特有の学習である「子どもの自
発的な遊び」を通して、探究心や思考力、
協同性の芽生えを育みます。

※教師との信頼関係に支えられた生活・興味や関心に基
づいて直接的な体験が得られる生活・友達と十分関わっ
て展開する生活(幼稚園教育要領)

各園で幼児期にふさわ
しい遊びや生活を積み
重ねることにより、幼
児期に育みたい資質・
能力が育まれている幼
児の具体的な姿

つなひろマップ 自園は 自校は 今、どの位置?それぞれにおける具体的な

区幼保小連携推進協議会

02 つながろう

いろいろなアプローチ

施設的环境や人を生かして

03 かかわろう

知り合って かかわって

お互いの心の距離を縮めて

自覚的な学びへ

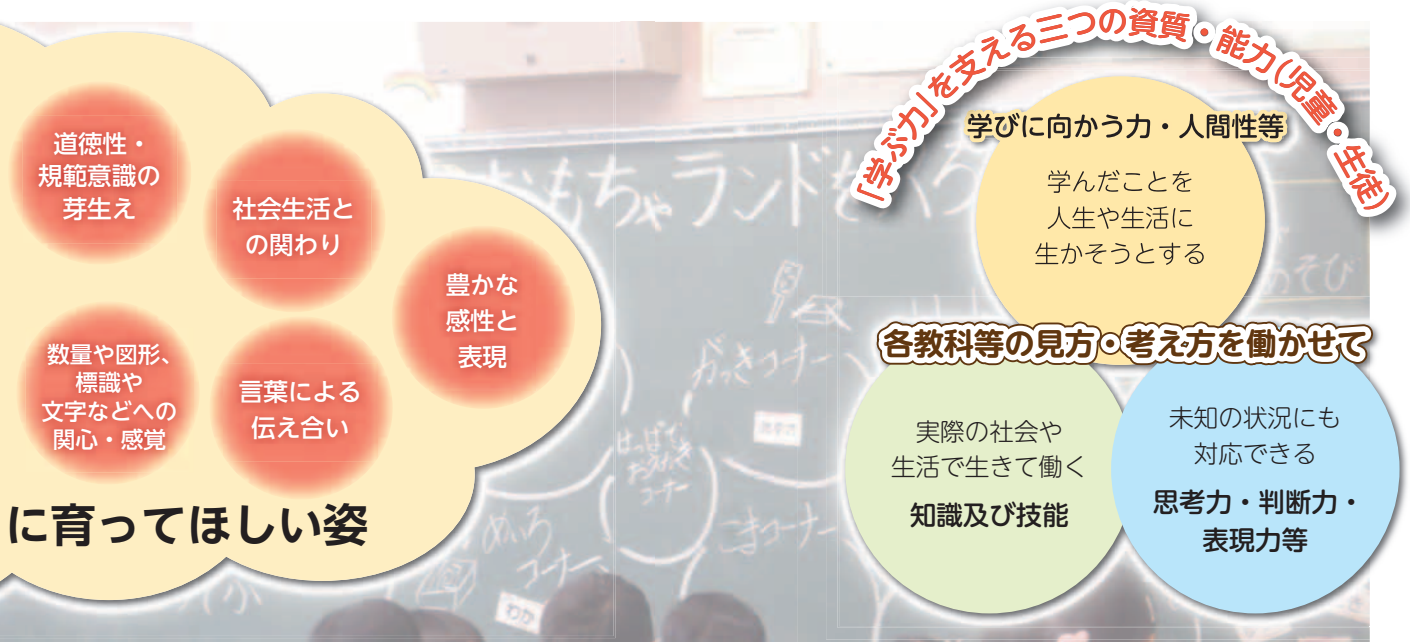
橋 期

1年生

2年生……

実感し、その過程や経験を誇りにもって、心豊かにしなやかに歩み続ける子どもを育みます。

見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力



に育ってほしい姿

小学校段階(そだつ)

教育活動全般において※1「課題探究的な学習」を取り入れた授業づくりと※2「さっぽろっ子自治的な活動」を2本柱として学ぶ力の育成を目指します。「どのように学ぶか」という視点を大切にし、学びや活動の中に未来に生きて働くための「本物の経験」となり得る場を創出することで、子どもの「学ぶ力」を育みます。

※1 自ら疑問や課題をもち、主体的に活動する学習

※2 子どもが「～したい」という意欲をもち、よりよい方法を考えて動き、集団づくりや社会への参画を通して変化を生み出した喜びを手応えとして心に残す主体的な活動

中学校段階(のびる)

高等学校段階(ひらく)

自立した札幌人



実践事例を紹介します。

27 ページへ



01 はじめよう はじめの一步

地域にはどんな園・学校があるのかな

04 ふかめよう

遊びや学習が充実

育てたい子どもの姿を共有して

05 ひろげよう

地域で育む・地域がつながる

地域が互いに声を掛け合って

札幌市の幼保小連携・接続

幼保小連携モデル園・校事業の取組

つながるひろがるマップ

実践例

「自園・自校の実態に応じた取組」



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)って何だろう

幼児教育において育みたい**資質・能力**が育まれている**具体的な姿**です。

幼稚園・認定こども園・保育所のどこであっても、幼児教育で育みたい力を**共通に示した**ものです。

保育者が**指導を行う際に考慮するもの**ですが、**到達目標ではありません**。

小学校では**10の姿を踏まえた指導の工夫**をすることにより、幼児期に育まれた**資質・能力**を伸ばすことができます。

健康な
心と体



やりたいことに向かって
心と体を十分に働かせて

自立心



自分の力で
あきらめずにやり遂げて

協同性



思いや考えを共有して
共通の目的の実現に向けて

道徳性・
規範意識の
芽生え



自分の気持ちを調整したり
友達と折り合いを付けたり

社会生活
との
関わり



地域の人と触れ合って
地域に親しみをもって

思考力の
芽生え



考えたり
予想したり
工夫したり
新しい考えを生み出す喜び

自然との
関わり・
生命尊重



自然に触れて
好奇心や探究心をもって

数量や図形、
標識や文字
などへの関心・
感覚



数量や図形、標識や文字などに
親しむ体験を重ねて

言葉による
伝え合い



経験したことや
考えたことを伝えたり
相手の話を聞いたり

豊かな
感性と
表現



感じたことや考えたことを
表現することを喜んで

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校に
おける姿のつながりはコチラ→



幼児教育で育まれた力を生かした小学校教育って何だろう

教職経験に応じた研修を生かして

他校参観研修

(小学校主幹教諭や中堅教諭等による研修)

目的 自校の1年生のカリキュラムを有効なものにするため幼児期の教育活動を知る。

学び 鬼ごっこや色水遊びなど夢中になって遊ぶ中で、幼児がやりとりしながら自分たちで遊びを進めようとする姿、またそれを支える教師の意図的な働きかけと根拠となる子どもの見取りやその視点を知った。遊びが楽しいと子どもの主体的な姿につながる。

主体的に学ぶ
授業づくりの
参考になった

ある小学校の取組

幼稚園体験研修(1年生担任が近隣の幼稚園へ)

目的 遊びを通して学びを深めるための教師の支援や場の設定について学ぶ。

学び 園の遊具や身近な素材を使った遊びの環境づくりや楽しさの見える化は、学校の教室環境の参考になった。「また続きがしたい」という遊びへの思い入れは、子どもの興味や関心がどこにあるのかを教師が見逃さないことが大切。幼児期の経験をもっと知り、1年生にとって本当に必要な関わりや指導が何かを考えたい。

参観や指導要録
などによる
情報収集が大切

園から送付された指導要録を見てみよう

指導要録は、幼保小接続のツールの一つと言われており、幼児教育施設は小学校等へ育ちのバトンを適切につなぐため、作成しています。幼児期の終わりまでに育てほしい姿を踏まえ、その子の持ち味やどのような育ちが見られているのか、そして園の先生方がどのような指導をしてきたのかが分かるものです。

新1年生一人一人の理解とともに、関わりや指導のヒントを得られるこの指導要録を十分活用しましょう。



(様式3) 幼稚園幼児指導要録(最終学年の指導に関する記録)

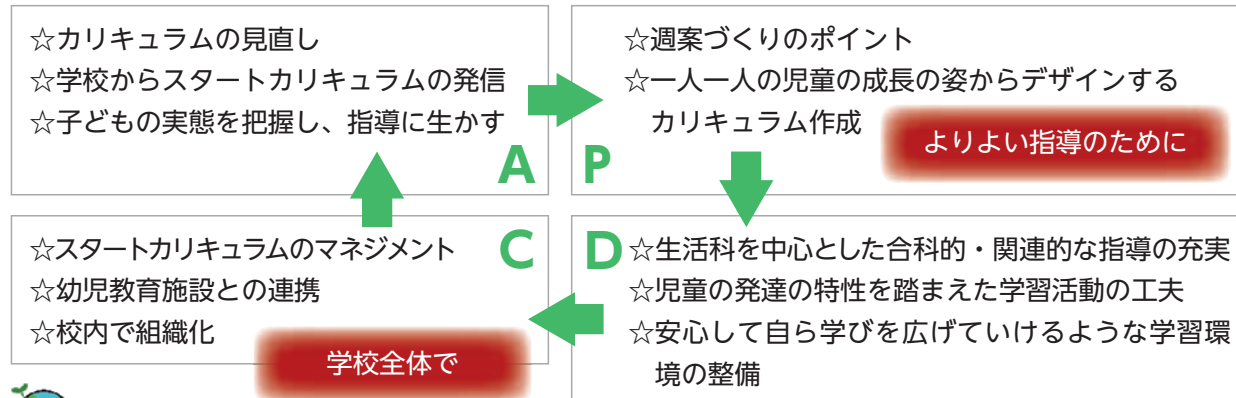
氏名	平成 年 月 日生	指導の重点等	学年の重点 年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したもの
性別	ねらい (発達を捉える視点)		個人の重点 1年間を振り返って、当該幼児の指導について特に重視してきた点
健康	ねらい (発達を捉える視点)	〇1年間の指導の過程と幼児の発達の姿	1年間の指導の過程と幼児の発達の姿 ・当該幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの ・次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項

Q 様式の参考例(H30_札幌市教育委員会)

札幌市教育課程編成の手引-小学校編-「生活1年 スタートカリキュラム」より

スタートカリキュラムの編成に係る基本的な考え方を以下のように示しています。

詳細は
こちら



適応のためではなく、児童が安心して自己を発揮し主体的に学びに向かうためのカリキュラムです。

札幌市の幼保小連携・接続の取組 — 幼保小連携推進協議会 —

札幌市では、平成25年度から、区ごとに幼保小連携推進協議会を設置し、連携・接続の基盤をつくってまいりました。区内の3歳以上の幼児教育を行う施設と小学校の担当者が一堂に会し、顔が見える関係づくり、互いの教育・保育の理解に向けた研修や協議、就学時における幼児教育施設から小学校への引継などに取り組んでいます。

さらなる幼保小連携・接続のために

各区研究実践園を中心に幼保小の連携を推進

より組織的、機能的、継続的に体制整備を行う

幼保小連携推進協議会

各区に協議会を設置し、幼保小の管理者・教職員の定期的な会を実施



区代表者会

小学校長会、区保育・子育て支援センター(ちあふる)所長、札幌市私立幼稚園連合会、札幌市私立保育連盟、日本保育協会、区幼児教育支援員(市立幼稚園教諭)及び市立幼稚園長(区幼児教育コーディネーター)が区代表者として協働して運営しています。

全市研修会

学識経験者などの講話を聴き、幼保小連携・接続の意義等について学びます。全区が同内容の講話を聴くことができるよう、同時配信や動画視聴を取り入れています。

ブロック研修

日常の連携を円滑に進められるよう、小学校や中学校の校区の中にある施設同士でブロックを編成し、顔合せや研修等を行います。

幼保小連絡会

保護者の了承を得た通常の学級に就学する配慮が必要なお子さんについて、指定した日時に一斉に引継を行います。特別支援学級や特別支援学校に就学するお子さんは、個別に園と学校がやりとりします。

幼保小連絡会の手順を園・学校に事前配布し、支援をつなぐポイントを確認

幼保小連絡会 引継の流れ

札幌市教育委員会

令和〇年〇月〇日(〇)に、区内の園・校が引継を行います

「幼保小連絡会引継時程表」と「小学校担当者一覧」を準備します。
引継時程表で指定された時間帯に、園から小学校に電話をします。

〇〇園の△△です。
特別の引継でお願い致します。
担当の◇◇先生をお願いします。

幼稚園
認定こども園
保育園

担当の◇◇です。〇〇園の△△先生ですね。
(電話に出た時間を確認し)
それでは、〇〇〇分までの時間まで引継をお願いします。

小学校

重要! 原則、引継時間は15分以内としています。
*引継人数が少ない場合は、引継内容を伝えた時点で終了してください。
*5人以上の引継がある場合は、30分程度の時間を確保しています。

ポイント 限られた時間なので、内容を精選して伝えます。
・幼児の実態とそれに対する園で行ってきた手立て
・育ってきた姿と引継ぐ支援

(視点)
○コミュニケーション(思いや要求の表出、友達との関わりなど)
○集団参加(指示理解、意欲・態度など)
○行動特性(不安に感じやすいこと、苦手なこと、安全面で留意することなど)
○その他、引継が必要な事項

(引継内容例)
学級活動の場面では、…という姿があり、…のような支援をしてきました。それにより…のような育ちが見られています。
…の点について、引き続き支援が必要と考えられています。

幼稚園
認定こども園
保育園

なるほど～このような場合はどうですか?

小学校

開始時に確認した時刻になったら終了です。

札幌市は全国に先駆けて、公立・私立の施設が共に幼保小連携・接続の推進を行ってきました。現在は「幼保小架け橋プログラム」などでも、そのように取り組むことを促しているところです。

今後は、組織体の充実だけでなく、協議会をきっかけとした各園・校の日常の教育・保育の実践に落とし込むことが一層重要です。

年度当初に配布するリーフレット

日程

教育委員会が日程を決め、年度当初に対象となる施設宛て文書を送付しています。

第1回と第2回は、10区を2つに分けて日程を設定し、第3回は全市一斉に実施します。

会場

代表者会で検討します。小学校に会場提供の協力を仰いだり、市有施設等を借りたりします。

参加者

会の内容によって変わります。管理職だけでなく実務担当者の参加により、効果が高まると考えます。

- ・カリキュラム・マネジメントに関わる教務担当者
- ・架け橋期に関わる職員（年長・1年担任）
- ・特別支援教育コーディネーター など

令和5年度版

子どもたちの学びと育ちをつなげるために

区ごとに 幼保小連携推進協議会

を設置しています

どのような会なの？いつ行っているの？

子どもの発達や学びの連続性を保障し、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続するため、区内の連携推進やネットワークづくりをしています。年3回（5月、10月、1月）実施しています。

誰が参加しているの？

区内の幼稚園、認定こども園、**保育所**及び小学校の実務担当者（年長、低学年担任）や連携担当者が一堂に会して顔を合わせます。

※保育所：3歳以上の保育を行っている認可保育所としています

どのようなことをしているの？

1、2回目は「幼保小連携・接続ってどういうことだろう？」というテーマで講演を聞いたり、教職員同士で研修したりします。
3回目は「幼保小連絡会」と呼んでいます。通常の学級に就学する「配慮の必要な幼児」について小学校へ引継を行います。



各区の代表者会が運営します
公立、私立の幼稚園・保育所及び小学校の園長・校長等で開催されます



近隣地域（小学校区や中学校区）でブロック編成をして交流を深めます



遊びの写真を見ながら、幼保小の先生方が語り合いました

協議会に参加すると…

地域の施設同士がなかよくなる
「こういう活動したいのだけど…」「園や学校の子どもの様子を見に来て！」など、互いに相談、交流しやすい関係づくりができます。

先生方同士が学び合える
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿？スタートカリキュラム？聞いたことはあるけれど、詳しくは分からない…なんてことはありませんか。具体的な実践をもとに学ぶことができます。

他園・他校の実践が参考になる
区内の好事例を聞いて「これならできそう」「これをやってみよう」と、自園・自校の実践のヒントをもらえます。



このタテとヨコのつながりが
子どもたちの育ちと指導の充実につながります！
ぜひ、ご参加ください。

幼保小連携モデル園・校事業に取り組みました(令和3年度～令和5年度)

目的

札幌市における幼保小の連携・接続の推進については、教育委員会が主催する区幼保小連携推進協議会における組織的な取組と、地域のつながりの中で各園・校が工夫して実践する様々な取組が行われてきました。

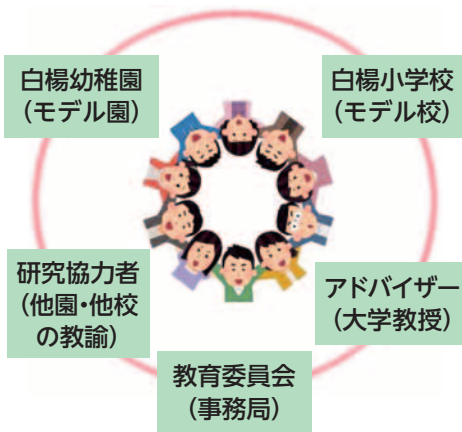
区幼保小連携推進協議会は浸透している一方、各園・校による実践は取組に差がありました。**なぜ連携・接続が大事なのか、子どもたちに育つものは何か、この取組による教育的効果**などが分かることにより、主体的な各園・校の実践につながり、充実すると考え、令和3年度から幼保小連携モデル事業を開始しました。

テーマ

発達や学びの連続性を踏まえた幼保小の連携・接続の望ましい在り方を研究



方法



- モデル園・校を設定し、モデル園・校を支える存在としてアドバイザーや研究協力者に加え、つながるひろがる研究推進会議(つなひろ会議)を年に数回設定
- テーマに関する内容について検討、実践、評価、改善を繰り返し、その効果を市内の園・学校に発信

つながる ひろがる 研究推進会議

発信・共有

全市学習会開催(年1回)

ハンドブック作成(令和5年度)

内容

幼児・児童の交流活動
5・5デー(5歳児と5年生)
や1年生の生活科において、
子どもの相互の育ちや学び
を支援

10 12 20 ページ

教師同士の学び合い
互いの子どもの発達の段階
や教育内容を理解し、自園・
自校の実践力を向上

9 13 ページ

連携・接続のための体制
互いのカリキュラムへの位
置づけや担当者を明確にし
て確実に連携・接続の取組
を推進

11 16 ページ

令和3年 コロナ禍でのモデル事業スタート



困った!

モデル園とモデル校はもともと「5・5デー」という5歳児と5年生の交流活動を行っていましたが、コロナ禍では直接子ども同士が関わる活動を進めることが難しくなりました。そこで考えたのは、**子どもの育ち、教職員の学びのためにできることを工夫しよう!**でした。

5・5デー (5歳児と5年生の交流活動)



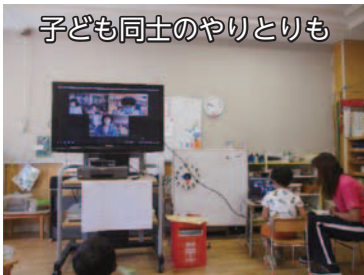
打合せも



お手紙交換はできそう!



5年生
かっこいい!!



子ども同士のやりとりも

オンラインなら顔を見合える!

お兄さんが僕の好きなクワガタの折り紙をくれた!

ぼくたちのよさこいを見てね!



教師同士の学び合い—1年生の授業を参観しよう

幼稚園教諭が感じた
授業のポイント

子どもたちに育みたい力
教師が指導で大切にしていること → 幼小の**共通点**が多いね!

- ・粘り強く取り組むこと
- ・「できた!」という思いをもてること
- ・困ったことを言えること
- ・やってみようという気持ちをもつこと

振り返り・改善に向けて

- ・育てたい子どもの姿を共有し、指導を考える
- ・互いの教育をもっと知ると良い
- ・計画的に予定を入れない!



- ★幼児・児童の交流には**共通指導演**を活用しよう
- ★子どもの姿(発達の段階)は**直接見て生で感じよう**
- ★職員間の引継や共有のために**次年度計画は前年度末に見通しをもとう**



アドバイザーより

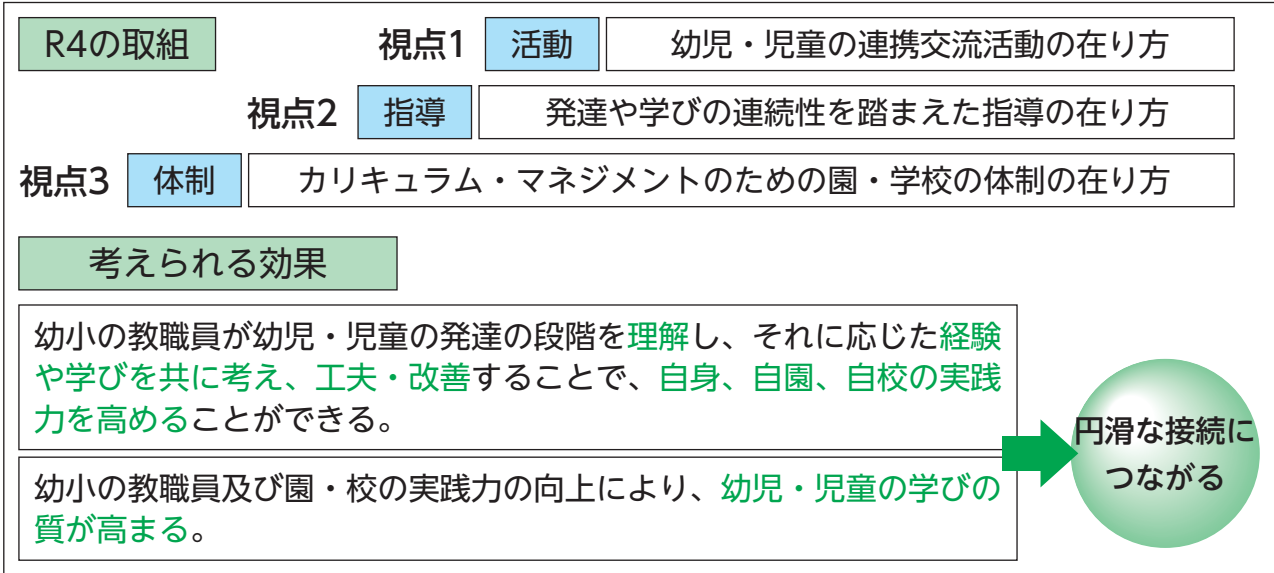
- ▶交流活動だけが幼保小連携・接続の取組とは限りません。
- ▶「コロナ禍」の工夫としてだけでなく、これから連携・接続の取組を考えたい園や学校、隣接する場所に園や学校がないところでも参考になりますね。

令和4年～令和5年 園・学校全体でどのような工夫ができるのか



社会情勢は様々な対応を求められることが続いていましたが、目的や目指す方向を確認の上、実現可能な形や互恵性のある教育活動や取組、人が代わっても変わらない体制づくりについて3つの視点をもって推進することとしました。

R4 全市学習会資料より

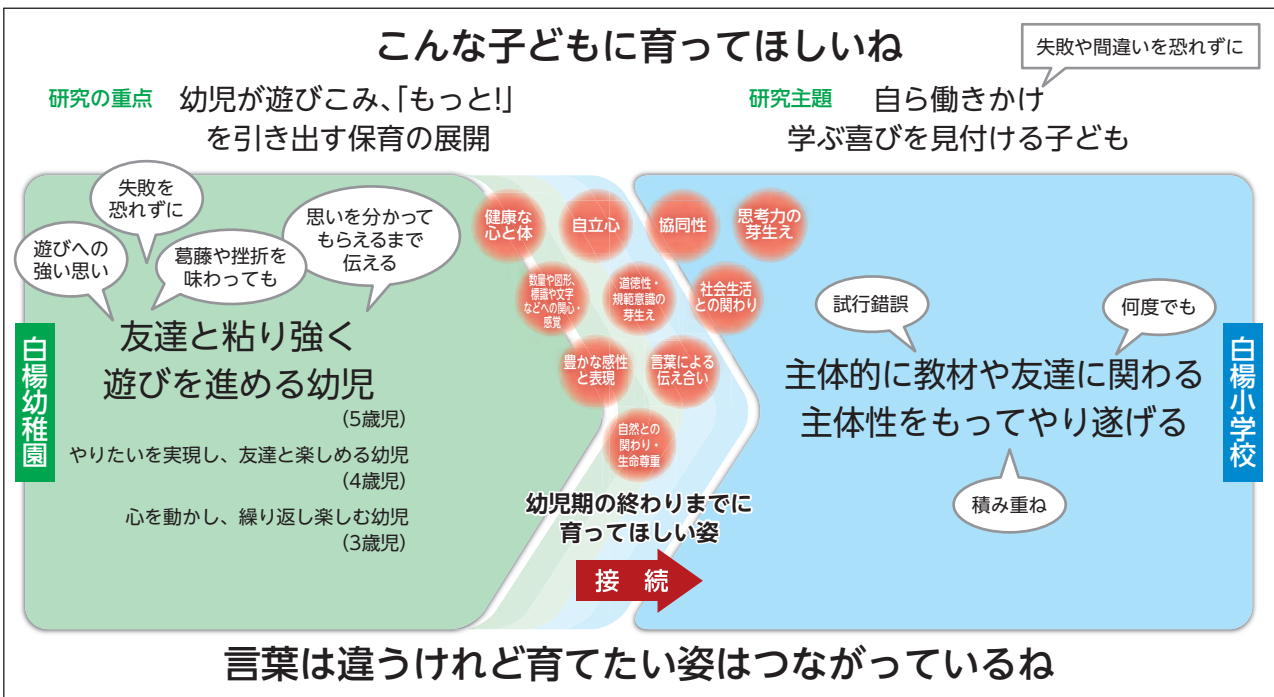


1 目指す子どもの姿を共有しよう

活動 指導 体制

取組を始めるにあたり、自園・自校の子どもたちのよさと育てたいところを改めて共有しました。互いの研究主題や研究の重点を窓口に子どもの姿を話すことで、使っている言葉は違うけれど、ねらいは共通していると分かりました。

また育ちや教育のつながりが見え、**取組の振り返りは常にここに立ち返る**ことを確認しました。



R4 全市学習会資料より

2 見通しを確認しよう

指導 体制

新年度は人事異動や園内・校内人事により担任や連携担当者等が代わることがあります。前年度末に計画していた内容を年度当初に新たな担当者で確認しました。

年間の連携計画を共通のものにしよう

令和5年度	白楊小学校と白楊幼稚園の連携計画	幼児児童の交流	教師間の連携	環境活用の連携
4月		<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して ・図工、書道等の作品を見る ・縄跳びを見る、リレーで一緒に走る、読み聞かせ、お店ごっこ等、関わりが可能なものを取り入れる。 →授業と絡めて、中休みの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生授業参観(幼保) (4月3~4週) (R4 14日5時間目) ○年間計画打ち合わせ (R5 4月20日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して ・小学校周辺の散歩 ・なかよしドア開閉 中休みの行き来 →ドアの活用方法は今後確認 ○小学校の畑借用 ○グラウンドで遊ぶ、運動会の取組
5月		<ul style="list-style-type: none"> ○1年生よさこいで交流(幼保) ・幼保5歳児と1年生担任で計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して ・小学校全校研 ・授業や保育の参観(学期に1~2回) ・事例検討 ・交換授業 …等 	
6月				
7月		この時に連絡の窓口になるのは誰かな	○小学校研究会 7/20.21	○プール(4,5歳児)
8月		<ul style="list-style-type: none"> ○5・5デー ・5歳担任と5年生担任で年間計画作成 ・年間を通じた交流 	<p>昨年の計画をベースに変更箇所は赤入れしよう</p>	<p>職員の研修も行いたいね</p>
9月		<ul style="list-style-type: none"> ・研究会があるため、交流開始は8月頃を予定 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園札私幼公開保育 9/29 ○幼児期についての研修会(小研究日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○グラウンドで運動会 ・空いている時間の利用 ・雨天時に備え、事前に体育館で遊ぶ経験
10月		<ul style="list-style-type: none"> ○焼き芋会(ひまわり学級) ○合同避難訓練(10月) ・小学校グラウンドに避難 ○学習発表会児童公開日観覧(幼保) ○1年生おもちゃランドで交流 11月上~中旬(幼保) 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生参観(2学期後半) (R4 生活科おもちゃランドの単元) 	
11月		<ul style="list-style-type: none"> ・幼保5歳児と1年生担任で計画 		
12月		<ul style="list-style-type: none"> ○2年生生活科(まちたんけん)(動くおもちゃ) 		
1月			<ul style="list-style-type: none"> ○年長を参観(1~2月) ○雪遊びの研修(1月下旬) ○スタートカリキュラムの見直し ○年間の振り返り・次年度の計画 ○幼稚園教育課程見直し 	
2月		<ul style="list-style-type: none"> ○学校探検(幼保) ・1年生の授業の様子や校内を 		<ul style="list-style-type: none"> ○スキー山で遊ぶ(幼保) ・スキー学習終了後(2月中旬~下旬)ソリやチューブ滑り
3月		<ul style="list-style-type: none"> ○5歳児が見学 ○6年生職業調べ 		



アドバイザーより

- ▶先生方がしっかりと思いを伝え合うことで見通しが立ちます。そしてこの計画を打合せ等の共通のツールとすることで、いつでも確かめ合うことができます。
- ▶1園対1校の交流に限らず、地域の園や学校との計画としても活用できるかもしれません。まずはもともになるものをつくって、実情に応じてカスタマイズしていくと良いのではないのでしょうか。

3 交流の時は共通指導演案を活用しよう

活動 指導

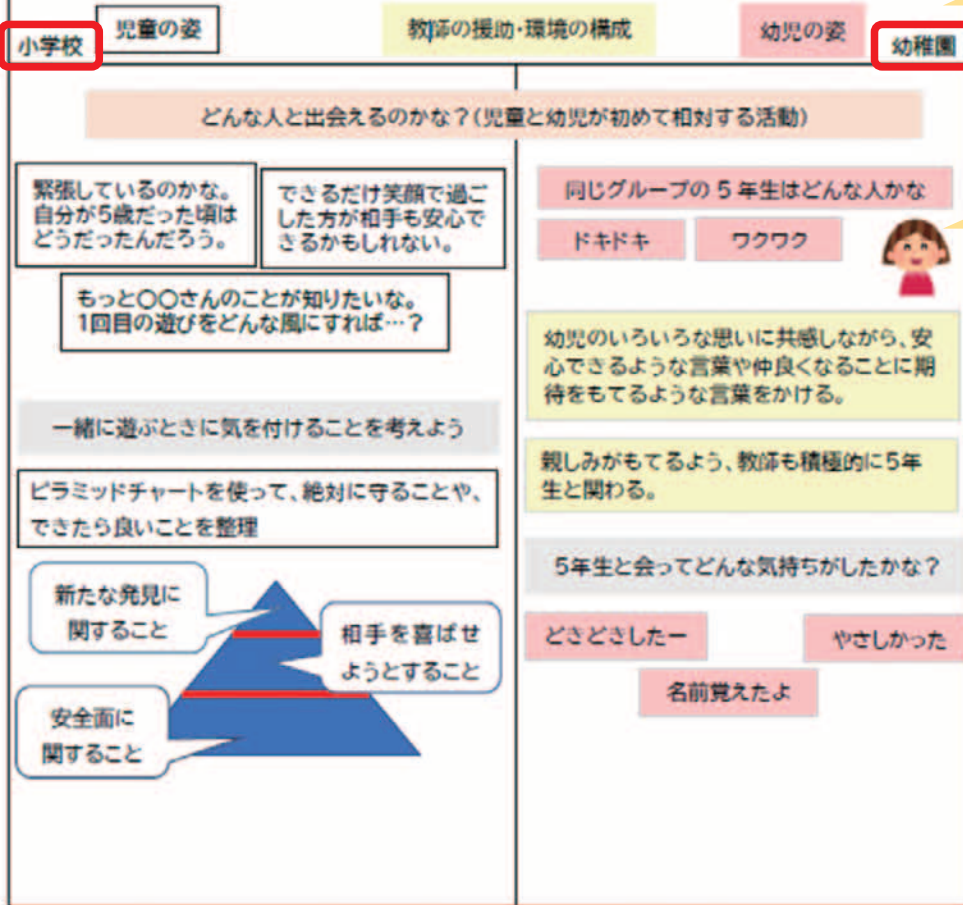
教育課程に位置付けている学習・保育ですので、その活動を通して育みたいことが幼稚園にも小学校にもあります。それぞれの子どもたちに育みたいことや教師が意図していることを分かりやすくするために、共通指導演案を活用して、打合せや活動内容の共通理解を図りました。

そうすることで、幼稚園教諭が児童に、また小学校教諭が幼児に関わる場面でも子どもの発達の段階に応じて適切に対応することができるでしょう。

共通指導演案

本取組では、白楊小学校の第五学年の児童と白楊幼稚園の年長組の幼児が遊び等の交流を行う。
小学校は「総合的な学習の時間」のカリキュラムの一つと位置付ける。接し方はもちろん、遊びの選択、創造などを含めたコミュニケーション活動を主活動に据え、インタビューなどの情報収集、思考ツールを活用した情報の整理などにも取り組む。最後には、「わたしの5・5デー-BOOK」として、活動を他者に伝えようとする。
幼稚園は幼児と児童と一緒に遊んだり活動したりすることを通して、その楽しさを感じ、親しみや安心感、信頼感、憧れの気持ちを持ち、小学校への期待を高めることをねらいとする。

ねらい	5歳児	5年生に自分の思いや考えを言葉で伝えながら一緒に遊びや活動を楽しむ。
	5年生	園児との遊びや先生や親へのインタビューを通して、幼児期の子どもの思いや育ちを理解し、望ましい接し方を考えとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。



この活動や学習に対する願いやそれぞれに育みたい力を共有

事前にそれぞれの箇所を入力し、データを統合

5年生が入力した内容を受けて幼稚園の指導や5年生とのかわりを工夫することもあり

アドバイザーより
 思いを共通にするツールによって「一緒につくっていく」という考えになりますね。また、打合せ時間の効率化にもつながるのではないのでしょうか。

共通指導演案(実践)の続きは

20 ページ

4 教師同士の学び合いを大切にしよう

活動 指導 体制

幼児教育から小学校教育へのつながりに関わる考え方は、「連携」から「接続」へとシフトしています。何を接続するのか—それは子どもたちに育みたい資質・能力です。

しかし学校段階等間の接続では、それを認識しつつ、「実は互いの教育を見たことがない」「どのような生活を送っているのか分からない」などの実態があります。そこで、モデル園・校では「教師同士の学び合い」を意識し、それを自園・自校の教育に生かせるようにしました。

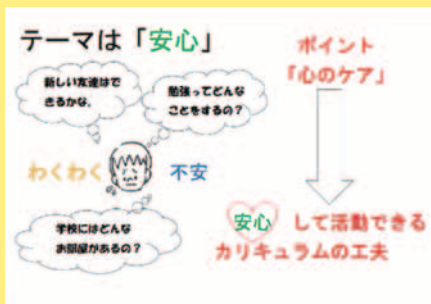


教えて!スタートカリキュラム

1年生の担任(モデル事業担当者)から幼稚園教諭へ、スタートカリキュラムに対する小学校の思いと、実際に1年生にどのように関わって1学期を過ごしてきたのかを話しました。

研修時間 60分

- ・1年生を迎える上で大切にしていること— **テーマは「安心」**
- ・入学当初、新しい環境や見知らぬ人の中で、子どもたちが自信をもって安心して活動できるカリキュラム、指導内容の工夫が必要。
- 生活科を中心とした合科的・関連的な指導—活動の中に様々な教科に関連した内容が含まれている。「やってみたい!」「知りたい!」「どうやって?」などの思いをくすぐりながら学習を進めている。



研修の流れ

- ・講話
 - ・質問&交流タイム
- ※幼稚園を会場としていたため、最後に園内環境巡りを提案しました。

園の掲示物や扱っている教材・素材、楽しんでいる遊びや歌などは、1年生の教室環境のヒントになりそうです。

年度末には小学校でも職員間でスタートカリキュラムを共有したとのこと。当該学年だけではなく、学校全体で理解することが1年生の「安心」につながるのですね。

気づき・学び・共感の声

- ・園と学校の子どもへの関わりや遊びや活動で大切にしていることは似ていることがたくさん!
- ・1年生が安心して自己を発揮できるように育ちのつながりを共有することは大事!





冬の遊び環境を見てみよう！

1年生活科「きせつとなかよし ふゆ」では雪を生かした様々な活動があります。幼児期にはどのように雪に触れて遊んでいるのか、1・2年生の担任が園庭の遊びを見学しました。

研修時間 15分程度～



この環境は先生方が準備したのですか？

子どもたちが考えて、必要な道具を一緒に探したり、準備したりしたのですよ。

参考になる！もっと早くに見に来ていればよかった。

気づき・学び・驚きの声

・「やってみたい」と思った時に、子どもたちがすぐに手に取ったり、試したりできるような環境の構成だ。主体的な活動に関わって、小学校の学習でも大切なことですね！



小学校教諭は、遊びの見取りに難しさを感じることもあるかもしれませんが。園の先生に解説してもらえると理解が深まって良いですね。

研修の流れ

・参観&随時質問
※遊びの経緯や遊び方などをその場で訊いて、答えてもらいました。



授業を参観して学ぼう！

入学当初の1年生はどのように生活しているのだろうか？連携計画を見直す中で幼稚園教諭が4月に授業参観する機会をもちました。また、白楊小学校の校内研究日に参加し、授業について学ぶ機会をもちました。授業を通して育んでいることや工夫などについて小学校教諭の話を聞き、学びが深まりました。



研修時間 当日の時間設定による

幼稚園教諭が視点とした授業参観の3つのポイント

- 1 小学校と幼稚園の指導の共通点と相違点は？
- 2 幼稚園での育ちからつながりを見取ったところは？
- 3 幼稚園での指導に生かしたいところは？

参観後に、園内研修の一環で園でも気付いたことについて協議

→小学校教育の理解へつながる

研修の流れ

- ・参観
- ・協議



札幌市の小学校は、「分かる・できる・楽しい授業」の実現に向けて、授業の工夫や指導の充実を図っています。「授業」に対する正しい知識を得ることは大切ですね。

気づき・学び・直接見て良かったの声

- ・子どもたちの様子を見ると自分たちで学習を進めようという意識が高い。
- ・「なぜ」「どうして」という疑問から主体的な学びにつながっている。
- ・先生方の指導は結果や答えだけでなく、過程を大切にしている。



幼児期の遊びは学びがいっぱい！



幼稚園教諭から小学校教諭へ、幼児教育ではどのようなことをしているのか、遊びの中にある学びとはどういうことなのかについて話し、資料や動画による遊びの様子から、子どもの育ちを見取ったり、育まれている力が小学校の生活や学習のどのような力につながるかを考えたりしました。

研修時間 45分

研修の流れ

・ 講話・協議

※育ちを見取る共通の視点として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を活用しました。

※今回の研修では年長児の「円山登山遠足ごっこ」の姿を取り上げました。年齢や時期によって姿に違いがあり、育ちのつながりを感じ取ることができるでしょう。



ごっこ遊びをしながら思いやイメージを言葉で伝え合っているのです。

言葉での伝え合いの素地が育まれているということですね。

その育ちがあると、小学校でも「相手の気持ちを考えて行動する」「話を聞く」「思いを伝える」などの力が付いてきますよ。



試行錯誤しながら遊びに必要なものを作っていたのですよ。

その経験は、算数や図画工作の学習などで、具体的に想像しながら自ら課題や対象に関わる力につながりますね。

気付き・学び・率直な声

- ・ みんなで作り上げるという協同的な活動を幼児期も経験してきているんだ！これは図画工作の活動で、自分と友達の制作物をつなげて関わりや考え方を発展させている姿に通じるものがある。
- ・ 小学校では教科の学習を通して様々な力を育てている。幼稚園は遊びを通して様々な力を育てているんだね。



交流学年や低学年など連携・接続に関わる担当者が参加する研修になりがちなところを、園・学校の多くの職員で共有する研修としたことがとても有意義です！

5 スタートカリキュラムをアップデートしよう

活動 指導 体制

モデル事業開始当時、モデル校には、すでに作成されたスタートカリキュラムがありました。それは小学校で内容や方法、時間の設定等を十分検討して作成したものです。

一方、今日の教育では「接続」の観点から「幼保小が協働して架け橋期のカリキュラムを作成すること」が求められています。また作成したものは、児童の実態に合わせてアップデートすることが大切です。

子どもたちの育ちを共に支え、資質・能力をつなぐために何ができるかということです。本事業の中で、モデル園とモデル校はどのように「協働」していったのか共有します。

令和4年

入学当初の1年生担任の戸惑いを聞いてみた

どんな子が入学してくるのかな？

どのように関わったら良いのかな？

困ったことを伝えられない子が多いかも？

学級の子全体に伝えながらも個別の働きかけが必要

主体的に学習に取り組む姿勢とは？

本校のカリキュラムにある「安心」をキーワードにどのような工夫ができるかな？



小学校

園で慣れ親しんできた遊びを小学校で取り入れると良いのでは？

遊びの引き出しがほしいな。

みんなで遊びを楽しんだら一体感もてるよね。

幼稚園の先生の関わり方や遊びは学校でも参考にできますね。

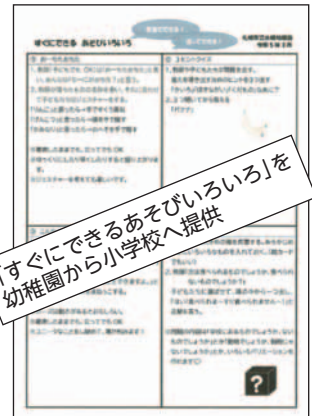
園の遊びの様子を伝えたら生かせるかな？

すぐできる、何も道具がなくてもできる遊び、いっぱいありますよ！

ぜひ、幼稚園の遊びも見に来て！



幼稚園



分かったことや気付いたことは、スタートカリキュラムに生かそう

「すぐにできるあそびいろいろ」の詳細はコチラ



令和5年

スタートカリキュラムを実践してどうだったかな？



小学校

初めて1年生の担任をしたけれど、すごく参考になった！

「あそびいろいろ」は毎日使っていますよ。

校内の研修で詳しく話を聞けたので、入学当初の指導のポイントを意識できましたよ。

「10の姿」は研修で初めて知った。学習指導要領にも記載があった。知っておかなければならないことだった。

1年生の学習で大切にしている「人と関わる力」「様々な物の見方」「言葉で表現する力」はまさに「10の姿」ですね。

10の姿は
4ページ



幼稚園



アップデートする時はどんな内容があると指導の充実につながるかな？

小学校

幼児期の終わりの姿が、小学校でこんな姿に…という流れがあると良いのでは？

それと普段の園の生活が知りたい。写真1枚あるだけでも想像しやすいと思う。

「年長さんってこういうことできるの？」を園の先生に聞いてみようか。

幼稚園

先生方が1週目の週案を立てる時に参考になるものがあればいいだね。

小学校の疑問を聞くことで、幼児期に意識して育みたいことや必要な環境への気付きにもなると思う。

ざっくばらんに質問して！

1年生がゼロベースじゃないことが分かればいいね

幼稚園の先生に聞いてみたらこんなアドバイスがあったよ

例 入学4日目 せいかつかがはじまるよ (生活科)

小学校

学習の中で自己紹介をするのだけれど、入学したばかりの子どもたちは話せるのかな？ 友達の紹介は最後まで聞けるかな？

幼稚園

前に出て話す緊張する子もいるかもしれないけれど、園では自分の気持ちを言葉で伝えることや友達や先生の話に耳を傾けることをいろいろな機会を通して経験していますよ。

時間や人数を区切ってみては？

視覚的なものがあるとより興味をもって聞くことができるね。

週案に入れ込んだら次年度活用できるのでは？

幼稚園と小学校が協力・工夫して作成した週案はコチラ

誰が1年生の担任になっても大丈夫なように (全市学習会 白楊小学校発表資料より)

スタートカリキュラム～見直しに向けて

① 毎年、誰でも活用できるように → **記録化・見える化**

② 『0からのスタートではない』 → **教えることの精選・最適化**

③ 『安心』をキーワードに → **幼小のつながりから作りあげる**

4月→活動スタート！ 連携計画・スタートカリキュラムに沿って

★お互いの参観
→4月1年生、2月の園児
研究授業…

『10の姿』
『幼児期の学び』
+
『子どもの実際の姿』

★交流→5・5デー
おもちゃランド
よさこい…

★研修→スタカリ研修
雪遊び研修…

★職員同士の会議
・打ち合わせ

学びながら『蓄積』『共有』

3月→1年の振り返り スタートカリキュラムの見直し

記録化
文書データ、画像など指導の内容が分かるものは校内の共有フォルダへ保存

見える化
年度前にスタートカリキュラムや1年生の実態・生活について全職員で研修

最適化
園の様子を見聞きし、ゼロからのスタートではないことを知って指導に生かす

カリキュラムがつながる

年間指導計画 年長1月～3月のねらい

- 園生活が残り少ないことを感じながら、目的や見通しをもって意欲的に遊ぶ。
- 友達と互いによさを認め合いながら、園生活を楽しむ。
- 自分の成長を感じ、喜びや自信をもって生活する。

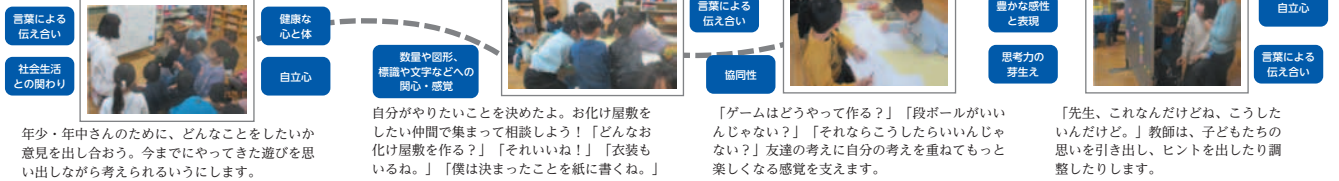
学級の仲間意識が深まっていく時期

幼児期



年長2月「年少年中さんを招待しよう」

年少年中さんのために～
もうすぐ幼稚園とお別れして1年生になる年長児。「みんなはどんな気持ち？」と担任が聞く。「ありがとうの気持ち」と子どもたち。これらと一緒に過ごしてきた年少年中さんに、あとがとの気持ちを込めて「サンキューランド」を計画することにした。幼児がこれまでの経験を生かして考えたり、友達や教師と相談したりして、一人一人が自分の力を発揮しながら友達と共通の目的に向かっていく楽しさを味わえるようにする。



年少年中さんのために、どんなことをしたいか意見を出し合おう。今までにやってきた遊びを思い出しながら考えられるようにします。

自分がやりたいことを決めよう。おかけ屋敷をしたい仲間を集まって相談しよう！「どんなおかけ屋敷を作る？」「それいいね！」「衣装もいるね。」「僕は決まったことを紙に書かね。」

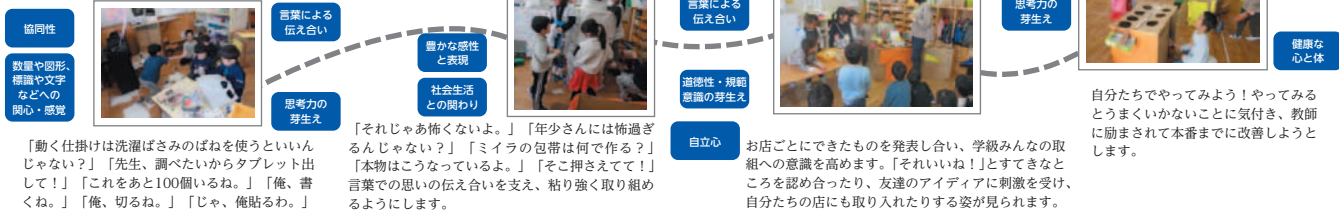
「ゲームはどうやって作る？」「段ボールがいいんじゃない？」「それならこうしたらいいんじゃない？」友達の考えに自分の考えを重ねてもっと楽しくなる感覚を支えます。

「先生、これなんだけど、こうした方がいいけど。」教師は、子どもたちの思いを引き出し、ヒントを出したり調整したりします。

幼児期の終わりにまでに育ててほしい10の姿

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

準備をしよう～
仲間と相談して決めたことを準備する。より本物みたいにつくりたいと追求する子どもたち。友達と力を合わせて必要な物を作りながら、新たに湧いてきたイメージを友達と伝え合ったり、友達と意見がぶつかった話し合ったりしながら、準備を進められるようにする。



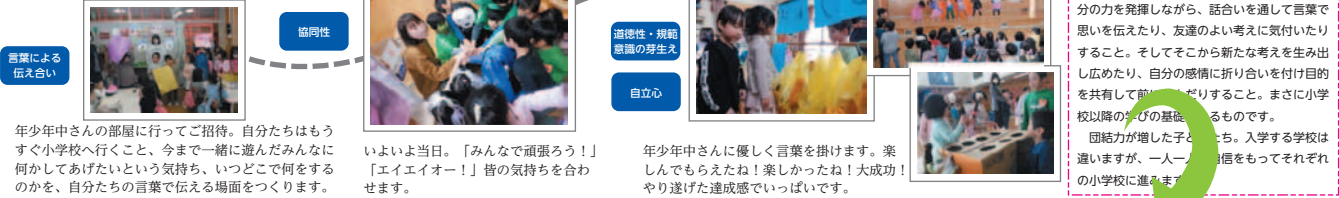
「動く仕掛けは洗濯ばさみのばねを使うといいんじゃない？」「先生、調べたいからタブレット出して！」「これをあと100個いるね。」「俺、書くね。」「俺、切るね。」「じゃ、俺貼るわ。」

「それじゃあ怖くないよ。」「年少年中には怖過ぎるんじゃない？」「ミイラの包帯は何で作る？」「本物はこうなっているよ。」「そこ押さえて！」言葉での思いの伝え合いを支え、粘り強く取り組めるようにします。

お店ごとにできたものを発表し合い、学級みんなの取組への意識を高めます。「それいいね！」とすてきなところを認め合ったり、友達のアイデアに刺激を受け、自分たちの店にも取り入れたりする姿が見られます。

自分たちでやってみよう！やってみるとうまくいかないことに気が付き、教師に励まされて本番までに改善しようとします。

招待しよう～楽しんでもらえたね！大成功！
年少年中さんのために、という思いを表現しながら、目的を達成する満足感や、やり遂げた喜びを感じられるようにする。



年少年中さんの部屋へ行ってご招待。自分たちはもうすぐ小学校へ行くこと、今まで一緒に遊んだみんなに何かしてあげたいという気持ち、いつどこで何をするのかを、自分たちの言葉で伝える場面をつくります。

いよいよ当日。「みんなで頑張ろう！」「エイエイオー！」皆の気持ちを合わせます。

年少年中さんに優しく言葉を掛けます。楽しんでもらえたね！楽しかったね！大成功！やり遂げた達成感でいっぱいです。

この時期は活動を通して、仲間の一人としての自覚や自信が高まり、内面的に一段と成長が見られます。協同的な活動の中で育つのは、自分の力を発揮しながら、話し合いを通して思いを伝えたり、友達のよい考えに気付いたりすること。そしてそこから新たな考えを生み出し広めたり、自分の感情に折り合いを付け、目的を共有して前に進んだりすること。まさに小学校以降の学びの基礎となるものです。団結力が増した子どもたち。入学する学校は違いますが、一人一人が自信をもってそれぞれの学校へ進みます。

この時期に育つ力
この時期は活動を通して、仲間の一人としての自覚や自信が高まり、内面的に一段と成長が見られます。協同的な活動の中で育つのは、自分の力を発揮しながら、話し合いを通して言葉で思いを伝えたり、友達のよい考えに気付いたりすること、そしてそこから新たな考えを生み出し広めたり、自分の感情に折り合いを付け、目的を共有して前に進んだりすることなどです。

これはまさに、小学校以降の学びの基礎となるものです。団結力が増した子どもたち。入学する学校は違いますが、一人一人が自信をもってそれぞれの学校へ進みます。

新しい生活が始まって

先生が変わっても

大丈夫！

友達と学校が違って

ちょっと困ったことがあっても

つないでいく成長～スタートカリキュラムへの思い

- 幼児期に育まれた土台をもとに、学校生活で自己を発揮できるように
- テーマは「安心」- 安心して活動できるカリキュラムの工夫
- ・人とのつながりから安心をつくる
- ・3つの「あ」から安心をつくる
- ・生活科を中心とした合科的・関連的な指導から安心をつくる

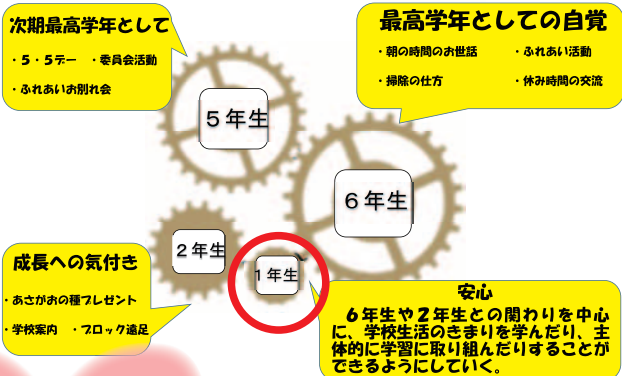
架け橋期

小学校

生活科「がっこうたんけん」



人とのつながりから安心をつくる



自己を発揮

様々な学年と歯車がかみ合って…

子どもの思いを考慮した時間を工夫して

3つの「あ」から安心をつくる

あさのしかん	
1	「あんしん」をつくる時間 <ul style="list-style-type: none"> ・本の読み聞かせ ・6年生との交流 ・歌やリズム遊び ・ふれあいゲーム
2	「あたらしい出会い」をつくる時間
3	生活科を中心とした学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・学校探検 ・2時間続きでゆっくりと ・生活科を中心に他教科とのつながりかんがえる
4	教科等を中心とした学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・10～15分の短い時間にくぎる等の工夫
フレンドタイム	「あへの期待」をつくる時間 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動を伴う学習活動 ・1日の終わりに、明日への期待感を高める活動

6 - ① 幼児・児童の交流活動例 5年 総合的な学習の時間より

本取組では、5年生の児童と年長組の幼児が遊び等の交流を行う。

5年生は「総合的な学習の時間」のカリキュラムの一つと位置付ける。接し方はもちろん、遊びの選択、創造などを含めたコミュニケーション活動を主活動に据え、インタビューなどの情報収集、思考ツールを活用した情報の整理などにも取り組む。最後には、「わたしの5・5デー BOOK」として、活動を他者に伝えようとする。

5歳児は幼児が児童と一緒に遊んだり活動したりすることを通して、その楽しさを感じ、親しみや安心感、信頼感、憧れの気持ちを持ち、小学校への期待を高めることをねらいとする。

幼稚園と小学校の
共通指導案

5・5デー(5歳児と5年生の交流活動)

ねらい

5歳児 5年生に自分の思いや考えを言葉で伝えながら一緒に遊びや活動を楽しむ。

5年生 園児との遊びや先生や保護者へのインタビューを通して、幼児期の子どもの思いや育ちを理解し、望ましい接し方を考えるとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。

小学校

児童の姿

教師の支援や援助・環境の構成

幼児の姿

幼稚園

交流1回目 どんな人と出会えるのかな？

緊張しているのかな。自分が5歳だった頃はどうかだったんだろう。

できるだけ笑顔で過ごした方が相手も安心できるかもしれない。

同じグループの5年生はどんな人かな。

ドキドキ

ワクワク



もっと〇〇さんのことが知りたいな。1回目の遊びをどんな風にすれば…？

幼児のいろいろな思いに共感しながら、安心できるような言葉や仲良くなることに期待をもてるような言葉をかける。

親しみがもてるよう、教師も積極的に5年生と関わる。

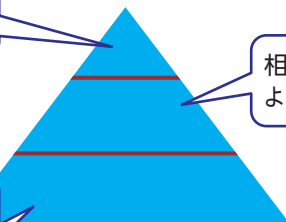
一緒に遊ぶときに気を付けることを考えよう

ピラミッドチャートを使って、絶対に守ることや、できたら良いことを整理

新たな発見に関すること

相手を喜ばせようとする

安全面に関すること



振り返り

5年生と会ってどんな気持ちでしたかな？

ドキドキしたー。

やさしかった。

名前覚えたよ。

交流2回目 一緒に遊ぼう① (幼稚園で幼児の好きな遊びを一緒に行う活動)

力は加減しながらも全力で遊ぶぞ!	一緒に喜んだりして、楽しい雰囲気を作りたい。	自分の得意なことを見てもらいたいな。	5年生はなんでも上手ですごい。
ルールはその時によって変わったりするんだな。	これなら、小学校で遊ぶときは〇〇ができそう!	一緒に遊ぶのうれしいな。	優しくて頼りになる。
		自分の思っていることを伝えたいな。	
困っている幼児には5年生に訊くよう促し、自分で関わろうとする気持ちをもてるよう支える。			

振り返り

自己評価を☆の数で表す活動

うちのグループは体を動かす遊びをしていた。	お絵描きが好きって言うていたから、次は…
途中で飽きてそうだった。どうすればよかったのかな?	どうすれば、みんなで楽しく遊ぶことができるのかな?

2回目の遊びに向けて、作戦を考えよう

まず、〇〇さんがやりたいて言っていた遊びをしよう!	もっと、「すごい」とか「上手」とか褒めてあげたいな。
内容	関わり方

相手に合わせた内容や関わり方を決めたら、きつとうまくいきそう!

今日は5年生とどんな遊びをしたの? 遊んでみてどんな気持ち?



学級に戻りグループごとに遊んだことや楽しかったことを発表し合う機会をつくり共有することで次に期待がもてるようにする。

こんな遊びをしたよ。

だんだん楽しくなってきたよ。

また一緒に遊びたいな!



交流3回目 一緒に遊ぼう②

(小学校で幼児の好きな遊びや興味のありそうなことを考えて一緒に遊ぶ活動)

初めての場所で緊張しているかもしれないな。徐々に慣れてくれたらいいな。	ボールは少し空気を抜いておいて、けがをしないようにしておいたよ。	体育館大きいな広いな。	体を動かしたいな。
〇〇さんが楽しそうだから、もうちょっとこの遊びを続けよう。	どうしよう。なんだかつまらなそうだな。次の遊びは大丈夫かな。	遊びたいけれど、どうしたらいいんだろう。	
		自分の考えを聞いてくれてうれしいな。	
5年生の関わりを見守り、困っている幼児をさりげなく知らせる。			



振り返り

自己評価を☆の数で表す活動

1回目より、〇〇さんの笑顔が見られたよ！ありがとうって言われたよ。

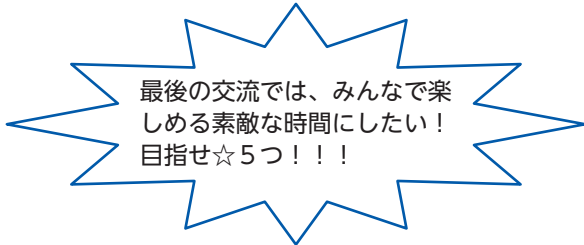
園庭で遊ぶより、楽しくなさそうだった気がする。どうしよう。

今日はどんなことをしたの？どんな気持ち？



ありがとうの気持ちを言葉で伝えたいな。

5年生とやった遊びが、おもしろかった。



幼稚園でもできそうだよ。やってみたい！



3回目の遊びに向けて、作戦を考えよう

もっと、〇〇さんのことを知りたいな。なかよしドアから入って、お話ししたいな。

関わり方のコツを幼稚園の先生に訊いてみたいな。

5年生と楽しんだ遊び（キックベースボールなど）を自分たちで再現できるよう必要な物を用意する。

幼児同士で遊びを再現できるように、教師も仲間に入り遊びを支える。

関わりが上手な友達のブックを見てみよう！

他のグループとも作戦を話し合ってもいいかも！

教師同士の中間振り返り

- ・2回目の遊びが終わった後、幼児・児童の姿や今後の方向性を確認した。
- ・「作戦」を実行するため、中休みの時間を使って5年生が園庭に遊びに来るなど、主体的に学ぶ姿があった。
- ・子どもたちに育てたい姿を共有しながら活動を進めることができた。



- 園の先生へのインタビュー活動
- 中休みなどの自発的な交流活動
- 最後の交流に向けた作戦を整理する活動 など

作戦

内容 関わり方

交流4回目 一緒に遊ぼう③(もう1回小学校で幼児と一緒に遊びを楽しむ活動)

サッカーのチーム分けを工夫してみたよ！

〇〇さんの考えを生かして、遊びを少し変えてみたよ。

〇〇さんと遊ぶの楽しみだな。



いっぱい体を動かしたそうだったから、前回より広い範囲で遊ぶぞ！



ごっこ遊びで自分たちも役になってあげるよ！

今日は「〇〇しよう」って誘ってみようかな。

サッカーで真剣勝負がしたいな。



最後の交流であることを話し、期待をもてるようにする。

振り返り	
自己評価を☆の数で表す活動	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">最後まで…少し残念。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">楽しかったな。</div> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">今回は☆5つだよ！今までで一番上手にできた！</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">ちょっとうまくいかなかったかも。次があればいいのに。</div>	<div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;">交流を振り返る言葉を掛け、それぞれの幼児の思いを5年生にどう伝えるか幼児と一緒に考える。</div>
<div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;">最後の交流の準備をしよう</div> <div style="padding: 5px;">相手に渡す物や言葉を準備する活動</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">メダルをあげたいな！</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">写真付きのお手紙がいいな。</div>	
<h3>交流5回目 最後に「お別れ会」をしよう</h3>	
<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">また会えるといいね。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">5年生はやっぱりかっこいいな。小学校に行くのが楽しみだな。</div>
評価・育っている力	
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 園児が楽しむ姿を目の当たりにし、関わる楽しさを感じたことで「他者との関わり」全般に前向きになる子が多かった。 ▶ 関わるための事前準備は当然必要だが、遊びの様子などから柔軟に考え、その場でベストを尽くそうとする子が増えた。 ▶ 5年生が考えて園児に提示した遊びがうまくいかなかったとき、園児の思いを聞いたり、寄り添ったり、言葉には表せない姿を見取ったりしながら試行錯誤していた。 ▶ 関わりが質が高まり、園児は5年生に対して自分の思いを表しやすくなっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 回を重ねることで5年生に親しみや信頼感もち関わりを楽しんでいた。 ▶ 導入と振り返りの時間を大切にすることで、思いを伝えたい気持ちが大きくなった。また、友達の発表をよく聞いたり、相手に伝わるように話したりする姿が見られた。 ▶ 5年生との遊びを園でも再現し、うまくいかないこともあったが、自分たちなりのルールややり方を粘り強く考えていた。 ▶ 園以外の場や相手に対しても、自分の思いを言葉で伝えていた。
<p>次年度への引継事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に作成した共通指導案をもとに、互いのねらいや子どもたちに育みたいことを明確にしよう！ ・5年生が提供した遊びを「やってもらう」交流ではなく、関わりから学びを深める内容にしよう！ ・出会いの場を幼稚園に設定し、園児が安心感をもってスタートできるようにしよう！ ・なかよしドアの開放、交流のスタート時期などの確認は適宜連絡を取り合おう！ <div style="text-align: right;">  </div>	



アドバイザーより

- ▶ 子どもだけでなく、先生同士も思いを伝え合い、仲良くなっていったことで、互いの教育を理解し、子どもたちへの指導や関わり方を意識できたようですね。
- ▶ この共通指導案は、記録として活用することもできそう！
当日の写真や子どもが発した言葉などを、実施後に添付、上書きしていくと、より学びのプロセスと、育まれた力を見取ることができるのでは？

1年生と6年生の担任に聞いてみた！

今年の6年生と1年生の関わりの様子はどうでしたか？

園児との交流を経験した6年生の関わりは これまでと全然違う！

遊ぶ力は
すでにある



6年生担任

年長児との遊びの経験があるので、入学当初の1年生との関わりの基盤はできていました。「1年生と遊ぶ力」はすでにあるので、それ以外のところでどのようにサポートするかなど、新たな課題に取り組むことができました。5・5デーの時は「接し方」に本当に苦労していたけれど、経験が見通しや自信につながっていたと思います。

6年生の関わり方はとても素敵です。「教えよう」「やってあげよう」ではなく「次はどうする？」「覚えてる？」「どうしたの？」など寄り添いと見守りの目で見てください。1年生も自分たちが受け入れられていること、そして、かわいがられていることを実感しているのだと思います。これが「安心」ということですね。



1年生担任

安心を生む
温かな関わり

遊んでもらう・遊んであげるという関係ではなく
自然と一緒に遊び、関わっている



5・5デーで育まれた力が生かされている



アドバイザーより

- ▶ 6年生の子どもたちは、5・5デーの活動を通して「幼児期」を知っているからこそ、1年生の行動や気持ちを予測・想像した温かで適切な関わりとなっているのだと感じます。このことは教師の指導の質にとっても大切な視点ですね。
- ▶ 育てたい姿がそれぞれにあり、互いに教育課程に位置付けている活動や学習です。意図的・計画的な取組による効果がよく分かりました。

6 - ② 幼児・児童の交流活動例 1年 生活科より

本取組では、1年生と校区の幼稚園・保育所の年長5歳児が遊び等の交流を行う。

1年生は生活科「きせつとなかよし あき」の単元を活用し、おもちゃ作りを軸に「5歳児におもちゃを楽しんでもらう」という目的意識をもたせる。幼稚園・保育所の子を招待して、自分の作ったおもちゃで遊んでもらったという経験を通じ、「〇〇がうまく行ってよかった。」「〇〇がむずかしかった。」など、自分自身の気付きを大切に、自己の成長につなげていきたい。

幼稚園・保育所は交流を通して小学校への期待や憧れの気持ちを高めたり、交流から刺激を受けたことを自分たちの遊びに取り入れ、友達と一緒に楽しもうとしたりする姿につなげていきたい。

幼稚園と小学校の
共通指導案

見付ける 気付く わくわくおもちゃランド(5歳児と1年生の交流)

ねらい

5歳児おもちゃランドに興味をもって関わり、言葉でやりとりしながら楽しもうとする。

1年生自分達が作り、考えてきたおもちゃを園児に教えたり、一緒に遊んだりする中で、みんなで取り組んだことや他者との接し方などで上手くいったこと、難しかったことなどに気付き、今後の生活や行動に生かそうとする。

小学校

児童の姿

教師の支援や援助・環境の構成

幼児の姿

幼稚園・保育所

5月 小学校のグラウンドで1年生が運動会で踊るよさこいに関わって交流を実施済

「きせつとなかよし あき」より

- ① 「秋の宝物を見つけよう！」
- ② 「宝物をつかっておもちゃをつくろう！」
→幼稚園・保育所の子たちにもこのおもちゃで遊んでもらいたいな……。 (目的意識)

ドキドキ ワクワク

幼児のいろいろな思いに共感しながら、安心できるような言葉や、いろいろな遊びを楽しむことができることに期待をもてるような言葉をかける。

おもちゃランドで遊ぼう！

招待状が必要だね。

もっと面白いおもちゃを！

どうやって遊ぶの？

気付き

自信

うまく説明できたよ！

工夫

挑戦

楽しんでくれて
うれしい！

やさしく教えて
あげようね。

困っている幼児には、1年生に訊くよう促し、自分で関わろうとする気持ちをもつことができるよう支える。

「これ、やりたいです。」と言葉で伝えてみよう！

面白いね!! 次は〇〇をしてみよう！

保育者も積極的に関わり楽しさに共感し、楽しい雰囲気をつくる。

1年生の素敵なところや工夫しているところなど、言葉に表して知らせていく。

振り返り



園児がたくさんおもちゃで遊んでくれたよ。

こうしたらうまくいったよ。

わたしたちもできそう！

1年生はこうやっていたよ。



幼児の「やりたい!」という思いをすぐ実現できるように必要なものを用意して、自分たちなりに再現できるよう支える。

評価・育っている力

- ▶ もっと楽しくするためにはどうしたらよいか試行錯誤していた。
- ▶ 小さい子に遊び方を分かりやすく伝えようとするなど、相手のことを考えながら行動していた。
- ▶ おもちゃが足りなくなるなど、うまくいかないことが出てきた時にどのように対応するかを考えながら行動していた。
- ▶ お店屋さんのやりとりが、事後の国語の学習に生きていた。
- ▶ 園とは異なる環境だったが、おもちゃランドに興味や好奇心をもって関わっていた。
- ▶ お店の紹介をよく聞き、自分で行きたいお店を決めて行動していた。
- ▶ 店員の1年生とのやりとりを重ねる中で、リラックスし、伝える言葉が増えていった。
- ▶ 1年生のお店がモデルとなり、園で再現して、年少組年中組をお客さんとして誘い、意欲的に遊ぶ姿があった。

次年度への引継事項

- ・ 校区の幼保小で共に関わり、共に学ぼう！
- ・ 事前打合せを行い、前年度の共通指導案をもとに**1年生と各園の思いを交流した上で取り組もう！**



R5 事前打合せより

自己肯定感を高めて2年生につなげたいな。(小)

コミュニケーションを大切にしたい。(幼保小)

言葉で伝えるって大事なことだよ。(幼保小)

1年生からの刺激や学校への憧れの気持ちを自分たちの遊びの意欲につなげたい。(幼保)

それぞれの
ねらいにつながる

相手意識をもって伝えることや言葉足らずで行き違いになることがあるので、伝え方も意識させたいな。(小)

新設の園だからこのような経験が少ない。小学生や他の園の友達が「味方」なんだという安心感をもってほしいな。(保)



アドバイザーより

この3年間で幼小協働して作り上げてきたものは、作って終わりではなく、見直し・改善して子どもたちの実態に応じたもの、持続した取組にしていけることが大切です。

幼保小連携・接続の取組は、互いにwin-winであることが肝心です。この交流による育ちが、園の遊びの充実や他の教科の学習等で力を発揮することにつながり、とても大きな成果となりました。また校種間(幼小)の「縦の継続」、幼児教育施設間の「横の連携」も大切です。子どもにとっては多様な人との関わりにもつながり、保育者にとっては幼児教育に関する学び合いや質の向上の機会にもなるでしょう。



実践は 43 ページ

実践例

— 自園・自校の実態に応じた取組 —

モデル園・校と同じ取組が、今すぐ全施設でできるかと言えば、「それは難しい」と感じる園や学校が多いかもしれません。なぜなら、生活している子どもの人数や立地条件(距離)、地域性など、園や学校がおかれている実態は様々であるからです。

それであれば、今、自分たちの園や学校はどのような立ち位置にあるのか把握したうえで、子どもの育ちや先生方の学び等につながる幼保小連携・接続の取組を検討していくと良いのではないのでしょうか。

ここからは、市内の園・学校による幼保小連携・接続の取組を各段階にまとめ、実践例として掲載しています。

「おもしろそうだな」「やってみたいな」「これならできるかな」など、まずは実現可能なものから始めてみませんか。

いまから ここから 育ちと学びをつなげよう



いまから ここから 育ちと学びをつなげよう



幼保小連携・接続の取組は

知っているけれど「どこから始めて良いか分からない」

これから取り組むにあたり「具体的な実践が知りたい」

取り組んでいるけれど「どのような効果があるのか考えたい」

など、園や学校の実情によって求めている内容は様々です。

区幼保小連携推進協議会

地域の園と学校がつながるきっかけ

知る

出会い・顔合わせ

01

はじめよう はじめの一步

02

つながろう

いろいろなアプローチ

施設的环境や人を生かして

実践例

- ▶元気なオタマジャクシにしたいね！
- ▶こうやってお米を守ったら
いいんだね！
- ▶安心して小学校生活を迎えるために

31 ページ ➡

03

かかわろう

知り合って かかわって

お互いの心の距離を縮めて

実践例

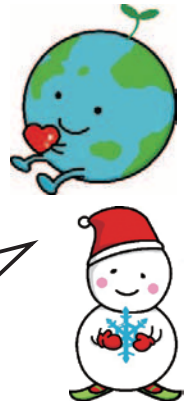
- ▶1年生の運動会を応援しに行こう！
- ▶1年生からのプレゼント
- ▶授業を見て感想を伝えよう
- ▶研究全体会で学ぼう

34 ページ ➡

自園・自校のこれまでの取組はどの立ち位置にありますか？

そこで！

各園・学校の取組の段階が見渡せる「つながる ひろがる マップ」を作成しました。段階に応じた具体的な実践も紹介します。各ページに掲載している実践例を活用・アレンジしながら、子どもの育ちと学びをつなげていきましょう。



学ぶ

講演会・研修などによる
学び合い

つなぐ

支援をつなぐ

6 ページ →

- ▶ 地域にはどんな園・学校があるのかな？
- ▶ 園や学校の誰とつながったら良いのかな？
- ▶ そうだ、市立幼稚園（区幼児教育コーディネーター※）に聞いてみよう！

※市立幼稚園長

30 ページ →

04 ふかめよう

遊びや学習が充実

育てたい子どもの姿を共有して

実践例

- ▶ 2年生から招待状が届いたよ！
- ▶ 久しぶり！今日も一緒に遊ぼう！
- ▶ 地域のつながりを生かして広がる学び
- ▶ 学校探検に行ってみよう！
- ▶ 幼稚園と小学校の合同研修をしよう

38 ページ →

05 ひろげよう

地域で育む・地域がつながる

地域が互いに声を掛け合って

実践例

- ▶ 地域の幼保小が一緒に取り組む連携
- ▶ 地域の教育・保育施設がつながって

43 ページ →

はじめの一步



地域にはどんな園・学校があるのかな？

札幌市のホームページを活用すると分かります

- ▶札幌市公式ホームページの「教育」のページでは、小・中学校の通学区域（住所）について公開しています。
- ▶札幌市子ども未来局が開設する「さっぽろ子育て情報サイト」では、簡単な操作で幼児教育施設や小学校の場所を確認することができます。

子どもたちとともに発見することも楽しい！

- ▶小学校では地域の資源や施設、人々について学ぶ学習があります。幼児教育施設では地域に散歩に出かけることも多いでしょう。顔を合わせたら、まずは挨拶や声掛けを！

園や学校のホームページを見てみよう

- ▶「近隣の施設が分かった」「顔見知りになった」そのあとは、各施設のホームページを見てみてはいかがでしょうか。園や学校の教育方針、子どもたちが楽しんでいることや学んでいることが分かるでしょう。



園や学校の誰とつながったら良いのかな？

いろいろなつながり方がります

- ▶年度当初に園長と校長が直接話す機会をもち、互いの子どもたちの実態や連携を図りたいことなどを伝え合い、その後、実務担当者同士が連絡を取りやすいよう進めている園・学校があります。
- ▶教育・保育活動全般の質問や日程調整が必要なこと、相談事などは、小学校→教頭、幼児教育施設→園長or副園長or教頭などを窓口として問合せみると良いでしょう。
- ▶区幼保小連携推進協議会には、各園・校から連携担当者（担任外）や実務担当者（担任）が参加します。会の前後や会中の交流タイムで困っていることや知りたいことを直接訊いてみるのも良いでしょう。



そうだ、市立幼稚園に聞いてみよう！

市立幼稚園は札幌市の「研究実践園」として、幼保小連携・接続に関する実践を積み重ねています。また、市立幼稚園の園長は、「区幼児教育コーディネーター」として幼児教育センター（教育委員会）と連携し、区幼保小連携推進協議会の運営の中心的役割を担っています。豊富な実践経験をもとに、ご相談に乗ったり、望ましい連携や接続についてお伝えしたりできるでしょう。

各園では幼児の教育相談も行っています。「支援をつなぐ幼保小連携・接続」についても分からないことはいつでもお問合せください。

元気なおたまジャクシにしたいね! -小学校の施設を活用して-

年長

ねらい

- ・小学校の施設を知り、関心や親しみの気持ちをもつ。
- ・身近な生き物の変化に気付き、友達と伝え合う。
- ・疑問に思ったことや知りたいことを小学校の図書室で自分なりに調べる。

実践の概要

カエルの卵がうまく育たず死んでしまった。「どうしたらいいかな?」と疑問に思ったことを友達と一緒に図鑑などで調べ始めました。

どうしたらいいかな…

元気なおたまジャクシにしたいね。

幼稚園にある本には載ってないね…



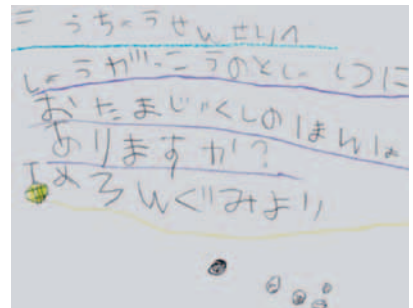
園の図鑑だけでは調べきれずにいたところ、ある子が「お姉ちゃんが行っている小学校の図書室にはたくさん本があるから行って調べたい!」と言いました。ナイスアイデア!子どもたちは、隣の学校の校長先生へお願いの手紙を書くことにしました。

その思いを実現させるため、教師がタイミングを逃さず小学校と連絡を取ったところ、校長先生から「ぜひどうぞ」とお返事をいただき、図書室を利用することになりました。

図書室では、たくさん本の中から自分で選んで調べたり、友達と伝え合ったりする姿が見られた。また校長先生と一緒に給食の準備の様子や校長室など、校内を見学することもできました。

子どもたちにとって楽しい経験となり、「また小学校に行ってみたいね!」と幼稚園に戻ってから自分たちなりに絵や言葉でお礼の手紙を書き、後日届けました。

カエルの本がたくさんあるよ!



実践のポイント

教師の援助

- ・幼児の思いや意欲を大切にしながら支えていく。

工夫した環境や教材など

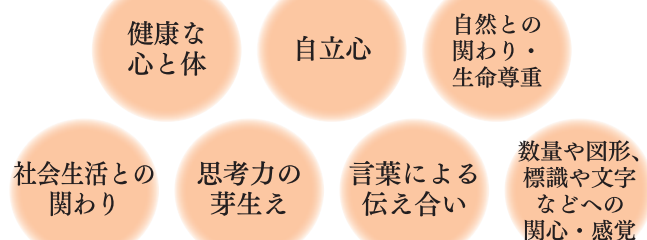
- ・幼児の興味が逸れないうちに小学校に連絡を取り、施設を利用できるように計画した。



ココが良かった!

- ・図書室には調べたい内容の本が多くあり、自分で選び、調べた内容を友達と伝え合う姿があった。
- ・その後、楽器に興味をもった子どもたちが発案した「音調べ」でも、小学校の音楽室の利用と本物の楽器に触れる経験につながった。小学校が「やりたいことを実現できる環境」の一つとなった。

育まれている10の姿



ねらい

- ・小学校で行われていることを実際に見ることで、自分たちだけでは気付くことのできない方法に気づき、真似て取り入れようとする。

実践の概要

屋上の畑で栽培活動をしている年長組。収穫間近のトウモロコシが、ある日無残に食べられ、「カラスの仕業だ！」と鳥の存在に気付いた子どもたち。屋上には他にも稲を植えています。教師は“どうやって稲を守るか自分たちで気付くことができるようにしたい”“近々小学校に遊びに行くため、その機会を活かしたい”と考え、「遊びに行ったときに田んぼを見せてほしい。」と学校と連絡を取りました。

当日、田んぼのそばを通りかかると、稲の周りに張り巡らせた網に気付いた子どもたち。学校の先生が「スズメにお米を取られないように網を付けているんだよ。」と教えてくれました。

それを聞いたA児が「幼稚園のトウモロコシにも網を付ければ良かった。」とポツリ。B児が「幼稚園のお米にも網付けなきゃ！」と気付きました。

幼稚園へ戻ると早速、自分たちのお米にも小学生と同じように網を付け、「スズメが入れるようなところはないかな?」「これで大丈夫だね！」と安心した様子でした。



何だこれ？



実践のポイント

教師の援助

- ・幼児が自分たちで考えて気付いたことを受け止め、認めたり周りの幼児に知らせたりする。

工夫した環境や教材など

- ・教師の意図である「学校の田んぼを見て網の存在に気づき、必要感に気付いてほしい」ということを学校に伝え、協力を得る。



ココが良かった!

- ・小学校の先生の言葉を聞いて、自分たちのお米も網を掛ければ良いのだと自分事として捉えていた。
- ・小学校の先生が直接伝えてくれたことも意識の高まりにつながった。
- ・施設利用、学校教師との関わりによって小学校への期待、憧れが高まった。
- ・スズメが入れるところがないか、友達同士で声を掛け合って確かめていた。

育まれている10の姿

健康な心と体

自立心

自然との関わり・生命尊重

社会生活との関わり

思考力の芽生え

言葉による伝え合い

安心して小学校生活を迎えるためにー小学校教諭から幼稚園保護者へー

教職員

ねらい

- ・保護者が小学校生活について知り、就学までの流れや就学後の生活について見通しをもち、安心して家庭で取り組める必要な事柄に取り組もうと思ったりできるようにする。

実践の概要

就学が間近となった10月の参観懇談会に小学校の先生をお招きし、『小学校での生活』等について年長児保護者に向けてお話をさせていただきました。

保護者の不安の一つである学習の進め方について、小学校では「時間割」の上で45分間の教科（学習）があるが、入学当初は徐々に新しい環境に慣れ、楽しく安心して毎日が過ごせるように配慮した「スタートカリキュラム」があることをお話しさせていただきました。

また、その他給食や宿題、生活リズム等についても実際の小学生の写真を交えながら分かりやすくお話しさせていただきました。

「入学したら子どもだけで登校することになるけれど大丈夫かしら?」「うちの子、好き嫌いがあるけど給食時間はどんな指導があるのかしら?」などの保護者の質問に対して具体的な回答とアドバイスがあり、安心感につながりました。



小学校教諭

家庭ではお子さんの話を聞いて受け止めることが「人への優しさ」「考える力」「失敗を乗り越える力」など多くの学びにつながるため、お子さんの話をじっくり聞いて認めてあげる時間を設けてください。

「あれもこれもできるようにならなきゃ!」と力を入れ過ぎず、入学を楽しみに来てください。

実践のポイント

- ・「小学校の先生に実際に聞いてみたいこと」と題し、保護者に事前アンケートをとった。
- ・小学校教諭に来園時間を早めに知らせ、子どもたちの様子を見ていただいた。
- ・参観後、かねてから顔見知りになっていた園児と小学校教諭が触れ合っている様子を保護者に見てもらえたことも安心感につながった。



ココが良かった!

小学校の先生には、懇談会の前に設定している保護者参観時の保育も見ていただいた。そのうえで「当日の幼児の姿から見られた学びの姿」「幼児期の学びが小学校の学びにつながっていくこと」などを、保護者に具体的に伝えてくださった。それにより、同じ場面を見ていた保護者にも、幼児期の遊びや経験が小学校生活の基盤になっていることが伝わりやすかった。

1年生の運動会を応援しに行こう！－小学校の運動会練習を見学－

年長

ねらい

- ・小学生の姿に刺激を受け、体を動かす遊びに意欲をもつ。
- ・他の施設の同学年の友達に出会い、親しみをもつ。

実践の概要

運動会に向けて取り組んでいる連携先の小学校や、保育所と連絡を取り合い、小学校のグラウンドで待ち合わせることにしました。1年生のダンスや徒競走などを間近で見て、幼児は1年生の踊りや音楽、力いっぱい走る姿に刺激を受けていました。



1年生走るの速いね！
鬼ごっこしたらすぐに捕まっちゃうかもね。

広いグラウンドだと、
たくさん走れそうだね！

今度、幼稚園で一緒に遊びたいね。

幼児は園庭の大きさとグラウンドとの違いに心が動き、「校庭で遊んでみたい」と思いをふくらませていたところ、小学校の先生から「また来てください。」と言葉を掛けていただき、とても喜びました。保育所の友達とまた一緒に遊ぶことを約束して、それぞれの園に帰りました。



いいね。また、会おうね！

実践のポイント

教師の援助 身近な地域の施設や友達のことを知らせ、新しい出会いを喜び、互いが親しみをもてるよう期待へつながる言葉をかけた。

工夫した環境や教材など 実施後、幼児の感想を聞き取り、思いや感じたことなどを小学校、保育所と共有した。これをきっかけに、保育所や小学校との新たな交流や大切にしたい交流の継続に意識が高まった。

- ・保育所→幼稚園の園庭や隣接する林などで、季節に応じた遊びを一緒に楽しむ（同年齢の幼児同士の関わりの充実）
- ・小学校→学習発表会の見学、保育所の年長児と共に小学校見学



ココが良かった！

幼児

- ・幼稚園以外の同年齢の友達との出会いに喜びを感じることができた。
- ・小学生の力強い走り方に刺激を受けて、真似ながら体を動かして遊ぶことを楽しんだ。

児童

- ・幼児からの応援があることで、さらに運動会への意欲が高まった。
- ・自分から積極的に挨拶を交わすなど、互いの存在を意識するきっかけづくりができた。

育まれている10の姿

健康な
心と体社会生活との
関わり言葉による
伝え合い豊かな感性
と表現

1年生からのプレゼントー直接交流はなくても工夫できるよー

年長&1年生活

ねらい

幼児

1年生を身近に感じ、やりとりすることを喜ぶ。

児童

様々な自然を試しながらおもちゃを作り、楽しんで遊びを創り出す。

小さい子のことを考えたり、想像したりし、やりとりすることに期待をもつ。

実践の概要

生活科の単元「きせつとなかよし」の中で、1年生は秋の自然物を使い、工夫しながらおもちゃを作りました。自分たちで遊ぶことを楽しんだ後、「幼稚園の子どもたちにおもちゃをプレゼントしよう」と活動が進んでいきました。

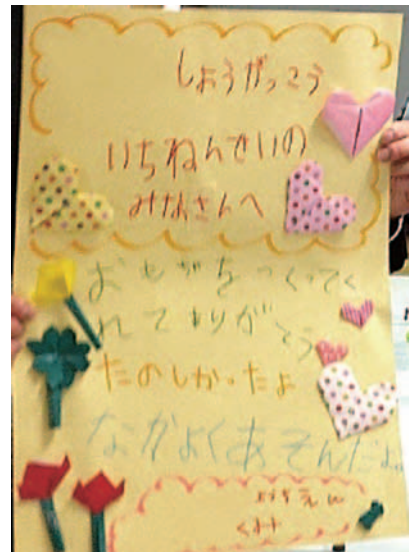
しかし当時はコロナ禍ー幼児と児童が直接交流することができなかつたため、小学校の連携担当者が児童の作った手作りおもちゃを幼稚園に届けてくれました。

「マラカス」や「けん玉」などの手作りおもちゃを楽しんだ幼児は、1年生にお礼の手紙を書くことにしました。小学校に訪問はできないので、幼稚園教諭が小学校に届けます。幼児の思いが表れている手紙を目にしたことで、1年生は幼児に喜んでもらえたことを実感できました。



実践のポイント

- ・年度当初に連携担当者同士で交流日程、内容を計画することで確実な実行につながる。
- ・コロナ禍で直接的な交流が難しく、内容を工夫した。例えば連携している園と学校の距離が遠いなどの物理的な課題があるときなどにも活用できる方法である。
- ・生活科の単元を活用した取組のため、改めて準備をしたり、計画を立てたりする必要がなく、取り組みやすい。



ココが良かった!

幼児

- ・小学生に対する親しみの気持ちや学校への興味をもつことができた。
- ・おもちゃで遊ぶ中で「自分たちも作ってみたい」と刺激を受け、製作活動の意欲が高まった。

児童

- ・製作遊びを楽しむとともに小さい子を喜ばせたいという『相手意識』をもって、活動を工夫する姿につながった。

育まれている10の姿

社会生活との
関わり思考力の
芽生え数量や図形、
標識や文字
などへの
関心・感覚言葉による
伝え合い豊かな感性
と表現

授業を見て感想を伝えようー対面に限らずできる工夫ー

教職員

ねらい

- ・幼稚園、小学校が就学前教育と小学校の接続の視点から情報交換を行う。
- ・相互の参観を通し、子どもの学びの連続性について共通認識をもつ。

実践の概要

【幼稚園教諭が小学校1年生の授業を参観した時の事例】

幼稚園教諭は案内のあった日時に、指定された学級の授業を参観します。その際小学校は、授業に関する感想や意見を取りまとめられるように、アンケート用紙を準備しておきます。

授業参観後、幼稚園教諭は園に戻ってからアンケート用紙に気付いたことや質問、訊いてみたいことなどを記入し、小学校連携担当教諭にメール等で送信します。



小学校連携担当教諭は、必要に応じて、メールや電話等で質問事項に対する返答をします。



※小学校教諭が保育参観をするときにも同様に取り組むことができます。



授業の中でなぜ〇〇〇という言葉
掛けたのですか？

1年生の指導では〇〇〇を大切に
しています。自ら意識できるような工
夫をしているのですよ。



実践のポイント

- ・前年度の3学期に、幼保小連携担当者同士で次年度の見通しを確認しておく、担当者が変わったとしてもスムーズに連携が続く。(交流を途切れさせない)
- ・連携の推進にあたっては、応答性のあるやりとりを含む内容を工夫して教師の学びにつなげ、一方通行の関わりにならないようにする。
- ・交流日程を新たに組むのではなく、保護者や地域向けの授業、保育参観日に参加し合うと効率的である。
- ・参加者は、他の職員に概要や得た情報を共有し、幼保小の接続に関する内容の理解を深める。



ココが良かった!

参観するだけでなく授業後にやりとりできたことで、発達の段階に応じた指導の視点の違いや共通点を確認でき、幼児・児童理解に関する視野が広がった。

研究全体会で学ぼう

教職員

札幌市の幼保小連携・接続

幼保小連携モデル園・校事業
の取組

つながるひろがるマップ

実践例
― 自園・自校の実態に応じた取組 ―

ねらい

・ 幼小の学びの連続性について、授業を通じて学び合うことで相互理解を深める。

実践の概要

小学校の研究全体会「1年生の算数科授業公開」の事前に行われた「指導案検討」に幼稚園教諭が参加しました。小学校の教育活動全体で『聞く』活動を大切にしているという話から、幼稚園でも『伝え合う』につながる『聞く』姿に課題を感じていることを共通理解しました。また、授業における小学校教諭の児童への関わり方や指導の手だてのポイントを知ることができました。

幼稚園教諭からは、幼児期に数量・図形についてどのような経験を積んでいるかについて例をあげ「積木で遊ぶ中で、『三角柱と三角柱を合わせると立方体になる』ことを無意識に感じている姿」「収穫物を数えるなど生活の中で必要に応じて数に触れている姿」等を伝えました。

研究全体会当日は、授業参観後に全体協議を行い、子どもたちの姿を元に【少人数交流の積み重ねが『聞く』姿勢に有効だった】【子どもの発言・発想の取り上げ方や新たな課題の提示の仕方が大切】等の話題があがり、幼児期にも通ずる手だてであること、幼児期の学びが児童期につながっていることを共通理解しました。



実践のポイント

小学校 幼稚園では感覚的に数量を扱っていることが分かった。その感覚的なものを知識として定着させていくのが小学校低学年の役割だということを確認できた。

幼稚園 就学後の学習の様子をイメージできた。幼児期において大切な学びや適した学び方について再確認することができた。

※小学校の研究に関連する『10の姿』を、幼稚園の指導計画に記載している『幼児の姿』から抜粋し、一覧表を作成して小学校の先生方に配付した。



ココが良かった!

- ・ 幼児期には無意識に関わっている様々な事象が、児童期では意識化されて理由なども言葉で説明できるようになる。幼児期には「楽しい! 不思議! やってみたい!」などと心が動くような事象との関わりを多く経験することが大切である。
- ・ 幼小共に学ぶ機会があることで、互いの教育や指導で大切にしていること、共通点などについて知ることができる。

ねらい

幼児 2年生へ親しみの気持ちをもったり、小学校のグラウンドで一緒に体を動かすことを楽しんでたりする。

児童 幼児が楽しめる遊び方や接し方を考えながら、交流を進めようとする。
体育の授業で取り組んだことを見せ、小学校が楽しい場所だということを知らせる。

実践の概要

小学校からうさぎ組に招待状が届きました。招待状には2年生の名前と顔写真、好きな遊びが書いてあるカードも入っていたため、幼児は2年生にはどんな人がいて、どんな遊びが好きかを知ることができて安心し、楽しみにする様子がありました。

〇〇さんっていう名前なんだね。



遊具で遊ぶ時は、最初に2年生がタイヤ跳びや雲梯などの手本や使い方を見せてから、幼児が好きな遊具で遊ぶことを楽しめるようにしました。「氷鬼」では、体格差がある幼児と一緒に楽しめる方法を2年生が考えました。「速足(走らない)」というルールです。幼児も2年生にタッチすることができて喜ぶ様子がありました。

グラウンドでいっぱい遊びましょう。



実践のポイント

教師の援助

・担任間で学級の実態や交流内容が妥当かなどについて話し合ったうえで、2年生が主体的に交流を進められるよう支えた。

工夫した環境や教材など

・写真と名前を記したポスター(年中)やカード(2年生)を事前に交換し、見通しや期待がもてるようにした。



また遊ぼうね!



ココが良かった!

幼児

・グラウンドの遊具に挑戦したことや、2年生と触れ合いながら遊んだことで親近感をもつことができた。

児童

・自分よりも小さな子を可愛いと思う気持ちや、優しく接しようとする態度を培うことができた。
・自分たちが計画したことを幼児が喜んでくれたことで、やりきった充実感を味わうことができた。

育まれている10の姿

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

久しぶり！今日も一緒に遊ぼう！－総合「きりん組と交流しよう」－ 年長&4年総合

ねらい

幼児 4年生との再会を喜び、触れ合ったり、いろいろな遊びを共に楽しんだりする。

児童 幼児と共にペアやグループで楽しめる遊びを計画し、幼児が楽しめるように会を進める。

実践の概要

総合的な学習の時間における3回目の交流場面で、交流の企画・運営を児童が自ら行う学習活動となっています。この日は幼児・児童が久しぶりに再会する日でした。楽しい時間を過ごせるように児童が考えたのは、手遊びと鬼ごっこでした。

手遊びは幼児にも親しみのあるものでしたが、「手つなぎ鬼」は初めて行うものでした。そこで4年生がルールを言葉や動きで教えながら、幼児と一緒に逃げたり鬼になったりしたことで、年長児が安心して取り組み、ルールを理解して楽しむことができました。



鬼は手をつなぐんだよ！

実践のポイント

工夫した環境や教材など

- ・ 幼児3名小学生4名のグループに分け、年間を通して同じメンバーで活動し、親しみをもてるようにした。
- ・ 幼児・小学生共にグループ名と名前が分かるように名札を準備した。



ココが良かった！

幼児

- ・ 幼児が4年生に甘えたり頼りにしたりする様子から、回を重ねるごとに信頼感や安心感のある関わりが積み重なった。
- ・ 4年生との遊びに刺激を受け、翌日から幼稚園で再現するなど、遊びへの意欲が高まった。

児童

- ・ これまでの学習から、児童から話し掛けることで、幼児の反応が良いことに気付き、自ら積極的に関わろうとする姿につながった。
- ・ 幼児でもできることが多くあることや「話が聞けるようになった！」など、幼児が成長している姿を捉えていた。



全部楽しかったです。

優しくしてくれてうれしかったです。

育まれている10の姿

健康な
心と体

協同性

社会生活
との
関わり

思考力の
芽生え

言葉による
伝え合い

意図的に…柔軟に…地域のつながりを生かして広がる学び

年長&2年生活

一年長児の遊びと2年生活「えがおのひみつたんけんたい」より

札幌市の幼保小連携・接続

ねらい

幼児 友達と考えを出し合いながら目的をもって遊ぶことを楽しむ。

児童 幼稚園の先生や幼児と直接関わった経験から、地域を支える人材としての幼稚園教諭のことについてもっと知りたいという学習への期待につなげる。

実践の概要

連携している小学校の2年生が、「まちたんけん」の途中に幼稚園の前を通りかかりました。それに気付いた年長組担任は、すぐに幼児に知らせ、園庭に出て2年生に声をかけました。修了児もいたため、子ども同士でも「久しぶり!」「どこ行っていたの?」などと出会いを喜び、関わる様子がありました。その後、幼稚園と小学校でそれぞれの学びが広がっていきました。

幼稚園 小学生が探検したり、見た場所を地図に書きこんだりしている様子に関心をもった幼児は「自分たちもやってみたい」と教師に伝えました。教師は、地域の環境への興味や遊びのヒントにもつながると考え、その思いを実現しようと柔軟に保育計画の修正をしました。後日「まちたんけんごっこ」と称して幼稚園の周りを歩きながら、幼児が見付けた場所を地図に書き込んでいくことを楽しみました。

小学校 幼稚園の近くを通ったのは、生活科「えがおのひみつたんけんたい」で自分たちの生活を支えている人としての幼稚園教諭に興味をもってほしいと願ったからです。日頃から連携している幼稚園なので、きっと柔軟に関わっていただけるだろうと思いましたが、児童から「また幼稚園に行きたい」という声があがったので、その後の学習につなげました。

あそこにお店があるよ！
先生、地図に書いて！



幼稚園の先生の仕事について教えてください。

実践のポイント

- ・交流の機会を逃さず、幼小それぞれの教師が積極的に関わり、幼児・児童が親しみを感じられるようにした。
- ・幼児・児童が自ら「やってみたい」と感じたことを、学習活動や遊びにつなげた。



ココが良かった!

幼児

- ・小学校の学習を直接見て興味や憧れの気持ちを持ち、それが遊びへの意欲となった。小学生と同じことができた喜びを感じ、自信や小学校への期待につながった。

児童

- ・地域の幼稚園という環境に直接関わることで、幼稚園教諭という存在に気付き、その後の学習活動に意欲をもって取り組むきっかけになった。

教師

- ・即時的な関わりに柔軟に対応し、子どもの学びにつながる連携となった。育てたい子どもの姿を園と学校が継続して共有してきた意義を再確認した。

育まれている10の姿

健康な心と体

協同性

思考力の芽生え

社会生活との関わり

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

幼保小連携モデル園・校事業の取組

つながるひろがるマップ

実践例
「自園・自校の実態に応じた取組」

学校探検に行ってみよう！－生活「もうすぐ2年生」

年長&1年生活

札幌市の幼保小連携・接続

幼保小連携モデル園・校事業の取組

つながるひろがるマップ

実践例
―自園・自校の実態に応じた取組―

ねらい

- 幼児** 就学に向けて期待をもつ。
小学校には幼稚園と同じような教室や物があることを知り、安心する。
- 児童** 新1年生が入学したらどのようなことをしたいかを考えたりイメージをもったりする。

実践の概要

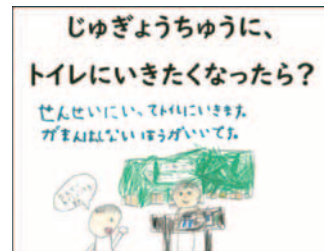
事前に電話で教師間の打合せを実施し、幼児の就学への安心感や期待につなげることを考え、園と似ている場所(体育館、トイレ等)と、興味をもてそうな場所(1年生の教室、音楽室等)を探検することとしました。

少し緊張気味の幼児でしたが、体育館を走り、気持ちをほぐす活動を取り入れてから探検に出発しました。探検の中で校長先生に出会ったり、幼稚園にはない設備などを目にし、感じたことを友達と伝え合う姿がありました。探検後、1年生から「学校の楽しいところ」や「入学を待っているよ」という気持ちを伝えられ、1年生になることを一層楽しみにする姿につながったと感じます。

楽しかった経験は、早速「学校ごっこ」につながりました。身近な道具や素材でランドセルやノートを作ります。遊ぶ中で小学校に対する疑問が出てきました。そこで、幼児からの質問を取りまとめ、1年生に送ったところ、イラスト付きの返事が届きました。



こくごのべんきょうをはじめます。



なるほど…わかったよ。

実践のポイント

教師の援助

- 幼児** どの小学校に行っても自分のことを気にかけてくれる先生がいることや、同じような教室があることを感じ、安心できるよう意識して言葉掛けをした。
- 児童** 自分たちの思いや小学校のことなどを幼児に分かりやすく伝える方法について、グループで話し合い、自分たちの考えを表現できるようにした。

工夫した環境や教材など

直接体験することを大切にしたいと考え、外靴の置き場の指示や約束事等を小学校の先生から直接教えてもらうようにした。



ココが良かった!

幼児

・実際に自分の目で確かめたり、疑問に答えてもらったりしたことで、小学校が「知っている場所」になり、安心や期待につながった。また、先生から「どの学校も同じだよ」と言われ、自分が入学する別の小学校にも期待や見通しをもつことができた。

児童

・幼児と関わりをもったことで、今後どのような2年生になりたいかなど具体的にイメージをもち、2年生に進級する心構えができた。

育まれている10の姿

- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い

ねらい

- ・小学校と幼稚園の教育を見学し合い、育ちや学び方の違い及び共通点やつながりなど、相互理解を図る。

実践の概要

連携している幼稚園と小学校で、互いの教育を理解するための研修を行っています。幼稚園教諭は1学期に1年生の生活科の授業を見学し、小学校教諭は2学期に保育を見学します。

毎年12月には合同研修日を設定し、幼小のほぼ全職員が参加します。幼児が遊んでいる場面の動画を視聴し、幼児教育と小学校教育の共通点や違いについて話し合いました。

－片付けの場面－

幼稚園は子どもが自分ですべきことに気づき、行動できるよう教師はそばで見守り、心が動く言葉を掛けるタイミングを計っているのですね。

小学校では、今は片付けても次にまたできるという保障をして、その時すべきことを明確に促すことが多いかと感じます。

－ルールのある遊び－

子ども同士がコミュニケーションを取りながら、遊びが成立するためにどうすると良いかを考えて遊ぶところは共通ですね。

実践のポイント

- ・年度当初に交流や研修について話し合ったり、内容を確認したりして計画する。
- ・小学校教諭が幼稚園を見学する時は、園長や主任がその日の遊びや幼児の育ちなどを具体的に説明すると良い。
- ・見学では見切れない場面などは動画を活用するなど工夫が考えられる。
- ・遊びや学習の場面を見て、互いの視点から育ちや大切にしたい経験を話すと、互いの教育のつながりが見える。



子どもの言葉に耳を傾けることは共通の援助ですね。

特別支援教育の考え方に似ているところがありますね。



ココが良かった!

幼児期の学びの話から、小学校の教育にも共通する環境の構成や教師の援助などについて考える機会となった。

- ・子どもが試してみたいと思ったことを認め、その過程を価値付けることで「もっと」という気持ちが高まり、深い学びにつながる。やりたいことが叶う場があるからこそ、自主性の芽が生まれ、生まれた芽が育つのではないか。
- ・子どもの身の回りにある全てが教材であり、園や学校で起こること全てに学びがある。
- ・園生活において遊びや活動の振り返りをする場面があることが分かった。小学校の学習でも行っているが、一人一人の中に遊びの価値や学びが落とし込まれたり、全体で共有したりすることができる大切な時間である。
- ・幼稚園生活の全てを通して、学習に向かう土台となる力を蓄えていると感じる。

地域の幼保小が一緒に取り組む連携

年長&1年／教職員

ねらい

- ・教師と保育者が、幼児期の育ちや小学校での学び、接続期について、互いの教育を知り、地域の子どもたちを共に育てる。
- ・幼保の横のつながりを持ち、交流を通して互いに刺激を受け、遊びや学びを豊かにする。

実践の概要

幼稚園・地域の保育所・小学校1年生の交流

地域でのつながりをつくるのが幼保小連携に必要なと考え、近隣の保育所にも声を掛けて一緒に取り組んでいます。

○5月（小学校グラウンド）

運動会のよさこいの練習を見て、一緒に踊る。

○11月（小学校体育館）学習発表会の練習を見る

○12月（小学校体育館）生活科『おもちゃランド』で交流



1年生
かっこいい!

25 ページ

幼稚園・保育所の交流

小学校で1年生のよさこいを見たあと、幼稚園から保育所に声を掛け、幼児教育施設同士の横の連携を進めることにしました。

○6月（保育所園庭）

私たち同じ小学校に行くんだね!

互いの園で踊っているよさこいを見合う・一緒に集団遊びをする。

○10月（幼稚園園庭）

互いの園で楽しんでいる遊びを紹介し合い、一緒に遊ぶ。



実践のポイント

教師の援助

※共通指導案 25 ページ

- ・*共通指導案で共有したねらいや内容、援助を踏まえ、幼児の遊びや関わりを支える。
- ・自園以外の幼児に積極的に言葉を掛けて、「一緒に楽しもう!」という雰囲気をつくる。

工夫した環境や教材など

- ・触れ合いや言葉のやりとりなど、関わりをもちやすい内容の遊びを取り入れる。



ココが良かった!

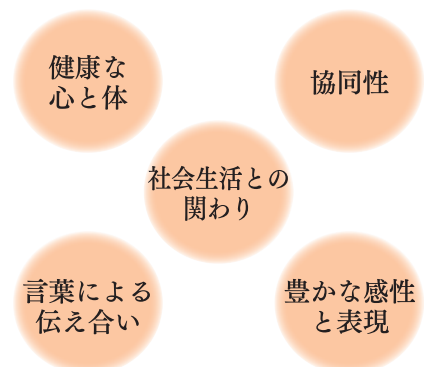
幼児・児童

- ・交流が刺激となり、遊びの広がりや発展が見られた。また同年代の子ども同士が言葉でやりとりしたり、自ら相手と関わったりするなど人間関係の広がりにつながった。

教師・保育者

- ・打合せの中で、園・学校の子どもたちのよさや課題に感じることを共有することにより、指導に生かす機会となった。
- ・互いの教育を知り、小学校への滑らかな接続（どのような経験や育ちをつなげると良いか）について話し合うことができた。
- ・幼保の横のつながり、幼保小の縦の連携ができ、地域で子どもたちを育むための土台となった。

育まれている10の姿



地域の教育・保育施設がつながって－菊水・米里地区教育機関連絡会－ 幼児／教職員

ねらい

- ・菊水・米里地区に住む子どもたちを地域全体で育てるという理念のもと、「0歳から15歳まで」を合言葉に乳幼児期から中学校段階までの15年間の育ちを見据えた連携の充実を図る。

参加機関

	幼児期	小学校	中学校
	菊水元町保育園 認定こども園菊水元町第二保育園 菊水いちい認定こども園 札幌市立きくすいもとまち幼稚園	札幌市立菊水小学校 札幌市立米里小学校	札幌市立米里中学校 構成メンバー 園長、副園長、主任 校長、教頭、教務主任等

内容

13年前に発足し、年に2～3回（6月・2月他）開催しています。中学校が主体となって連絡会を企画し、地区の教育機関に呼びかけ、連携活動の予定や地区で共有したい事柄などについて討議し、地域で子どもたちの育ちを支えています。

令和5年度はコロナ禍を経た久しぶりの開催だったため、互いの教育活動を知ること、子どもや教職員の交流等について希望すること等について意見交流することを目的としました。

各機関の子どもたちの様子や活動、行事の予定などを発表し合い、現状を共有したあと、事前に各施設の状況を取りまとめていた「連携活動一覧表」をもとに連携内容を加えるなどしました。



参考：連携活動一覧表

討議・共有内容

各教育機関の活動状況交流

- ・教育活動における重点など
- ・予定している幼・保・小・中の連携活動

討議したい内容（各機関の要望）

- ・各教育機関の行事参加や職員交流
- ・中学校教諭の小学校への出前授業
- ・小学校1年生担任の年長保育参観研修
- ・小学校2年生の生活科校区探検による幼保との交流
- ・幼保の中学校との交流

ココが良かった!

- ・札幌市の幼保小連携推進協議会が目指す、中学校区の自発的な連携の形が4年ぶりに再開し、地域のつながりを再確認することができた。
- ・設置主体や施設類型に関わらず、公立・私立の教職員がつながることの意義と必要感をもって取り組んでおり、「連携することがあたりまえ」という風土が醸成されている。
- ・公立の幼・小・中では、この連絡会をさらに発展させ、コミュニティスクールとして位置付けていきたいと考えており、その思いを参加者で共有することができた。

制作

モデル園・校 担当者

札幌市立白楊幼稚園

石川 香菜子・滝口 久子・本間 文子 (R3 - R4) 森 達也

札幌市立白楊小学校

杉原 正樹・武田 洋樹・斉藤 有彩 (R3 - R4) 三浦 雄介

実践例協力

八森 亜矢

札幌市立中央幼稚園 教諭

渋谷 かおり

札幌市立ひがしなえぼ幼稚園 教諭

森江 貴生

札幌市立きくすいもとまち幼稚園 教諭

中村 あすか

札幌市立あつべつきた幼稚園 教諭

山根 未奈・榊田 真穂

札幌市立かっこう幼稚園 教諭

石井 博子

札幌市立もいわ幼稚園 教諭

我妻 芳恵

札幌市立はまなす幼稚園 教諭

桜庭 明子

札幌市立手稲中央幼稚園 教諭

モデル事業アドバイザー

礒島 年成

北翔大学 教授

西出 勉 (R3 - R4)

元 北翔大学 教授

事務局

本間 真純

教育委員会幼児教育センター担当課 指導主事

村井 悠介

教育委員会教育課程担当課 指導主事

つながる ひろがる ハンドブック

—札幌市の幼保小連携・接続—

令和6年3月

編集 札幌市教育委員会 幼児教育センター担当課

発行 札幌市教育委員会

印刷 コミナミ印刷株式会社



札幌市教育委員会

令和6年3月